

島根大学・寧夏大学国際共同研究所年報

第7号

2013年度版

島根大学・寧夏大学国際共同研究所

Ⅲ - 4	島根大学・寧夏大学国際共同研究所図書館の開設について	34
Ⅲ - 5	冠付奨学金制度の運用	34
Ⅲ - 6	JICA 事後評価対応	35
Ⅲ - 7	その他活動等	
Ⅲ - 7 - 1	日本への留学支援.....	35
Ⅲ - 7 - 2	マスコミ等広報	35
Ⅳ	研究所の組織.....	36
	H25年度の運営体制	
	客員研究員名簿	
Ⅴ	資料その他	
Ⅴ - 1	新聞記事	37
Ⅴ - 2	国際共同研究所ホームページ・トピックス	39
Ⅴ - 3	田中研究員による留学生ニーズに関するプレゼン資料	49
Ⅴ - 4	ニューズレター	52
Ⅴ - 5	JST サイエンスポータルチャイナ HP に掲載された本研究所紹介記事	53

はじめに

島根大学・寧夏大学国際共同研究所は、中国西部の少数民族自治区、寧夏回族自治区の区都・銀川市にあります。寧夏大学は、自治区を代表する総合大学であり、本研究所はその構内に設置されています。

本研究所の特色は、日本の大学として唯一、中国西部の大学と共同で運営している研究所である点です。発展の著しい昨今の中国において、沿海部の大都市から地方都市・その周辺部へと経済発展が急速に波及しています。こうした状況のもとで、経済発展と環境問題、また社会変動に伴う人口流出や産業構造の変化、農村社会の変容など、日本が高度経済成長期に経験してきた諸問題が、寧夏をはじめ中国西北部の農村で今起こっています。

また寧夏だけに限りませんが、急速な経済発展と不十分な環境意識と環境対策によって、空気・土壌・水の環境汚染が著しく、また気候変動によって干ばつ・洪水の頻発など広範な環境問題が起こっています。そのためには人々の環境意識を喚起することが必要で、環境教育の重要性が叫ばれています。この点でも、島根大学で培ってきた環境教育のノウハウを現地に適合する形として移転することも今後の課題です。

このことから、本研究所では中国側及び日本側研究者との共同研究を推進しつつ、今後の地域の発展に資する人材育成を主要な目的として、さらに中国の現状に合う環境教育ノウハウとそれを行う人材の育成も視野に入れて活動しています。また本研究所は、寧夏回族自治区を中心に、中国西北部地域の情報を収集・分析・発信するとともに、研究者のみならず、企業や自治体に対しても利用可能な開かれた調査研究拠点として、重要な役割を果たすことを目指しています。

本年報は、2013年度の活動をまとめたもので第7号となります。活動の記録によって今後の活動に役立てるほか、広く学内外に向けて研究所の活動を公にし、研究所とその成果を活用いただければ幸いです。なお今年度は、2012年度に惹起した日中国際問題によって延期したセミナーを5月に島根大学で開催し、例年のセミナーは10月に寧夏大学で開催しています。このような中で共同研究を遂行し、寧夏大学で行った留学説明会をきっかけに多くの寧夏大学卒業生の島根大学留学が実現されました。その意味では研究所として多様な交流を実現できたと考えています。

本年報には従来から引き続き、諸活動に関連する記録や資料などを掲載しています。

2014年3月

島根大学・寧夏大学国際共同研究所
日本側所長 伊藤勝久

I 学術研究の交流

I - 1 第 10 回 日中国際学術国際セミナーの開催



2013年5月11日(土)、12日(日)の2日間をかけ、「日中農村における持続可能な社会構築と環境教育」を全体テーマとして、島根大学生物資源科学部1号館において第10回日中国際学術セミナーが開催された。今回のセミナーは従前と異なり、独立行政法人国際協力機構(JICA)の支援を受け、JICAの研修として位置づけていただき、中国西部地域を研究対象としている中国人研究者17名を研

修派遣いただいた。国際共同研究所が現在推進している「中国西部学術ネットワーク」の設立理念と既往の活動を評価いただき、JICAの支援をいただくことができた。

セミナー初日、小林祥泰 島根大学長、王鋒 寧夏大学代表、西宮宣昭 JICA 中国国際センター所長より挨拶があり、松本一郎 准教授(島根大学教育学部)、王鋒 教授(寧夏大・島根大国際共同研究所所長)、高島亜紗 調査役(JICA 中国事務所)からそれぞれ、「地域や学校現場における環境教育ー現状と課題・私たちの目指すものー」、「寧夏の農村流動人口による経済社会発展への影響及びその対策に関する研究」、「中国中西部における JICA の日中協力」と題する基調講演が行われた。

分科会においては、日中協力事業、中国の農業環境保護政策、環境教育、ソーシャルキャピタル、中国農村の人口移動、中国農村経済、中国の年金保険、乾燥地環境、自然エネルギー利用、農業、音楽と農業に関する計42題の口頭発表が行われた。

セミナー終了後、活発な総括討論に引き続き、島根大・寧夏大国際共同研究所所長 伊藤勝久 教授より本セミナーの総括、第11回の日中国際学術セミナー(寧夏大)に向けての課題整理及び「中国西部学術ネットワーク」の参加呼びかけが行われた。

「中国西部学術ネットワーク」は、共同研究所がハブになり、中国西部の研究を行う幅広い分野の研究者のネットワークを形成し、当該地域の研究を飛躍的に高めることを目的としたものです。参加者の多くはこれに賛同し、秋に予定されているセミナーでの再会を期すこととした。

セミナー終了後、島根大学主催のパーティーが東急インにて開催され、島根県、松江市からも出席者を迎えた。寧夏大学音楽学院の劉明教授と島根大学教員、学生による演奏会が余興として披露され、セミナー参加者が相互交流を深めた。

第 10 回 日中国際学術セミナーのスケジュール

5月11日(土)

開会式：島根大学生物資源科学部 1 号館 203 会議室

- 9:00 - 9:05 開会
- 9:05 - 9:20 小林祥泰 島根大学長挨拶
- 9:20 - 9:35 寧夏大学代表挨拶
- 9:35 - 9:50 西宮宣昭 JICA 中国国際センター所長挨拶
- 9:50 - 10:30 日本側基調講演 (松本一郎 島根大学教育学部准教授)
- 10:30 - 11:10 中国側基調講演 (王鋒 寧夏大・島根大国際共同研究所所長)
- 11:10 - 11:50 JICA 基調講演 (高島亜紗 JICA 中国事務所調査役)
- 11:50 - 13:00 昼食

時刻	分科会 1 (1号館 2F, 203 会議室)	時刻	分科会 2 (1号館 1F, 101 講義室)
13:00-13:30	時刻帯 A (3 演題) 座長：伊藤勝久	13:00-13:30	時刻帯 D (3 演題) 座長：任勇翔・一戸俊義
13:30-14:00		13:30-14:00	
14:00-14:30		14:00-14:30	
14:30-14:45	休憩	14:30-14:45	休憩
14:45-15:15	時刻帯 B (3 演題) 座長：余勁・関耕平	14:45-15:15	時刻帯 E (3 演題) 座長：米康充
15:15-15:45		15:15-15:45	
15:45-16:15		15:45-16:15	
16:15-16:30	休憩	16:15-16:30	休憩
16:30-17:00	時刻帯 C (4 演題) 吹野卓・伊藤勝久	16:30-17:00	時刻帯 F (4 演題) 座長：関耕平
17:00-17:30		17:00-17:30	
17:30-18:00		17:30-18:00	
18:00-18:30		18:00-18:30	

5月12日(日)

時刻	分科会 1 (1号館 2F, 203 会議室)	時刻	分科会 2 (1号館 1F, 101 講義室)
9:00- 9:30	時刻帯 G (3 演題) 座長：松本一郎	9:00- 9:30	時刻帯 K (3 演題) 座長：田 銘興・上園昌武
9:30-10:00		9:30-10:00	
10:00-10:30		10:00-10:30	
10:30-10:45	休憩	10:30-10:45	休憩
10:45-11:15	時刻帯 H (2 演題) 座長：米康充	10:45-11:15	時刻帯 L (2 演題) 座長：山岸主門
11:15-11:45		11:15-11:45	
11:45-13:00	昼食	11:45-13:00	昼食
13:00-13:30	時刻帯 I (4 演題) 座長：伊藤勝久	13:00-13:30	時刻帯 M (4 演題) 座長：一戸俊義・張旭
13:30-14:00		13:30-14:00	
14:00-14:30		14:00-14:30	
14:30-15:00		14:30-15:00	
15:00-15:15	休憩	15:00-15:15	休憩
15:15-15:45	時刻帯 J (3 演題) 座長：田阡・谷口憲治	15:15-15:45	時刻帯 N (3 演題) 座長：関耕平・胡躍高
15:45-16:15		15:45-16:15	
16:45-17:00	休憩	16:45-17:00	休憩
17:00-18:15	時刻帯 O 総括討論と講評 司会：伊藤勝久		
18:15-18:20	閉会の挨拶		

5月11日(土)の講演及び個別報告プログラム

【開会式：生物資源科学部1号館 203会議室】

開会 9:00 - 9:05

島根大学長挨拶
寧夏大学代表挨拶
JICA 中国国際センター所長挨拶

日本側基調講演 (9:50 - 10:30)

地域や学校現場における環境教育 - 現状と課題・私たちの目指すもの -
○松本一郎 (島根大学教育学部)

中国側基調講演 (10:30 - 11:10)

寧夏の農村流動人口による経済社会発展への影響及びその対策に関する研究
○王 鋒 (島根大学・寧夏大学国際共同研究所)

JICA 基調講演 (11:10 - 11:50)

中国中西部における J I C A の日中協力
○高島亜紗 (国際協力機構 (J I C A) 中国事務所)

昼食 11:50 - 13:00

【分科会1：生物資源科学部1号館 203会議室, 報告数10】

時刻帯 A (13:00 - 14:30) 座長：伊藤勝久 (日中協力事業)

13:00 - 13:30

日本国際協力機構 日中技術協力プロジェクト「中国持続的農業技術研究開発計画 (II)」
- 環境に優しい農業技術開発及び普及 -
○土岐典広 (JICA 専門家)

13:30 - 14:00

中国寧夏回族自治区と島根県における市民間協力に関する考察 (1)
- N P O 法人による民間交流の継承と再構築 -
○新出雄彦・岩崎幸志 (N P O 法人 日本寧夏友好交流協会)

14:00 - 14:30

島根県技術協力「寧夏回族自治区における水環境修復事業」について
○林 秀樹 (島根県国際協力事業アドバイザー)

休憩 14:30 - 14:45

時刻帯 B (14:45 - 16:15) 座長：余 勁・関 耕平 (中国の農業環境保護政策)

14:45 - 15:15

荒漠化問題についての社会科学からの一考察
○保母武彦 (島根大学名誉教授、島根大学・寧夏大学国際共同研究所顧問)

15:15 - 15:45

東アジアの農業の現状と未来
○胡 躍高 (中国農業大学中国防治荒漠化工程研究センター)

15:45 - 16:15

中国退耕還林政策実施効果とその評価 - 陝西省農戸調査によって -
○余 勁 (中国西北農林科技大学経済管理学院)

休憩 16:15 - 16:30

時刻帯 C (16:30 - 18:30) 座長：吹野 卓・伊藤勝久 (ソーシャルキャピタル)

16:30 - 17:00

農山漁村住民・移住者の幸福を形成するもの - 海士町における事例 -
○伊藤勝久 (島根大学生物資源科学部)

17:00 - 17:30

高齢化と「生きがい」

○吹野卓・片岡佳美（島根大学法文学部）

17:30 - 18:00

回族地域における大学生の心理健康状況調査に関する分析 - 寧夏を例として -

○王 淑莲¹・劉 晔（¹寧夏大学寧夏大学教務処, ²島根大学・寧夏大学国際共同研究所）

18:00 - 18:30

外部支援人材と地元住民の協働による地域資源の再発見と新たなネットワーク創出

- 島根県浜田市弥栄町における事例報告 -

○福島万紀（日本学術振興会特別研究員 PD, 島根大学生物資源科学部）

【分科会 2：生物資源科学部 1 号館 101 講義室, 報告数 10】

時刻帯 D (13:00 - 14:30) 座長：任 勇翔・一戸俊義（水質汚染抑制）

13:00 - 13:30

内モンゴル地区における中小型養殖場の家畜家禽糞尿の再利用とリサイクルの現状と対応策

○尹 雪峰・趙 吉・張 一心・王 立新・賈 志斌（内モンゴル大学環境と資源学院）

13:30 - 14:00

ABR と人工湿地の組み合わせ技術による中国西北地域の農村生活污水の処理

- 西安市上王村生活污水处理プロジェクトを例に -

○任 勇翔（西安建築科技大学国際交流合作処）

14:00 - 14:30

灌漑区域における農業排水による汚染の防止技術体系及び総合管理モデル

○楊 正礼（中国農業科学院農業環境と可持続発展研究所）

休憩 14:30 - 14:45

時刻帯 E (14:45 - 16:15) 座長：米 康充（土壌科学）

14:45 - 15:15

火入れ造林が土壌の生物多様性に与える影響

○金子信博・南谷幸雄・甘 樂法・岩島範子・長谷川裕子・増永二之・片桐成夫

15:15 - 15:45

灌漑方法、土壌水分の動態、水分利用効率の向上と農業旱魃災害の予防と対策

○呂 国華（中国農業科学院農業環境と可持続発展研究所）

15:45 - 16:15

寧夏回族自治区銀川平原の土壌塩性化の分布法則と抑制に関する研究

○張 源沛（寧夏農林科学院農業生物技術研究中心）

休憩 16:15 - 16:30

時刻帯 F (16:30-18:30) 座長：関 耕平（中国農村の人口移動）

16:30 - 17:00

出稼ぎ農山村集落の活動展開とソーシャル・キャピタル諸要素

- 新潟県三条市下田地区を事例として -

○柴畑恭介¹・伊藤勝久²（¹鳥取大学大学院連合農学研究科, ²島根大学生物資源科学部）

17:00 - 17:30

中国内モンゴルにおける農業後継者の就農意向と就農影響要因に関する考察

- 多変量解析法の適用 -

○周 雪琼¹・能美誠²（¹鳥取大学大学院連合農学研究科, ²鳥取大学農学部）

17:30 - 18:00

中国の少数民族地域における農村出稼ぎ労働者の「帰郷創業」に関する研究

- 彭陽県を中心に -

○藏 志勇¹・井口隆史²・運 麒安³

（¹島根大学・寧夏大学国際共同研究所, ²日本島根大学名誉教授, ³寧夏大学資源環境学院）

18:00 - 18:30

農民工の村落変遷における役割について - 日常生活理論分析の視点から -

○張 紅（西北農林科技大学人文学院）

5月12日(日)の個別報告プログラム

【分科会1：生物資源科学部1号館 203会議室, 報告数11】

時刻帯G(9:00-10:30) 座長：松本一郎(環境教育)

9:00-9:30

持続可能な教育視野から見た農村学校の廃校・合併問題に関する思考
—寧夏平羅県と原州区義務教育段階の事例調査を中心に—

○周 福盛(寧夏大学教育学院)

9:30-10:00

渡良瀬遊水地周辺地域における持続可能な社会構築と環境教育

○長濱 元(東洋大学名誉教授)

10:00-10:30

内モンゴルのカラチン旗の王爺府鎮大富裕溝村における生態的環境の変遷とその原因

○于 永(内モンゴル師範大学歴史文化学院)

休憩 10:30-10:45

時刻帯H(10:45-11:45) 座長：米 康充(乾燥地環境)

10:45-11:15

黄砂対策イノベーションモデルとグリーンベルトの構築
—円借款寧夏砂漠化防止生態環境総合整備プロジェクトを例に—

○馬 琮(寧夏農業総合開発弁公室)

11:15-11:45

中国西北部ゴビ砂漠のオアシス農業の歴史及び現状と今後

○王 希隆(蘭州大学歴史文化学院)

昼食 11:45-13:00

時刻帯I(13:00-15:00) 座長：伊藤勝久(中国農村経済)

13:00-13:30

中国西北乾燥地域における環境保全型畜産営農方式に関して
—寧夏回族自治区塩池県宏翔灘羊飼養園区を事例に—

○劉 海濤¹・谷口憲治²(¹島根大学生物資源科学部特別協力研究員, ²島根大学名誉教授)

13:30-14:00

青海省互助県における現代農業発展のSWOT分析及び戦略的構想

○湯 青川(青海大学農牧学院)

14:00-14:30

近代化進行中における回族集落の経済と文化発展に関する研究

—晋江市陳埭鎮の7つの回族村を中心に—

○季 芳桐(南京理工大学)

14:30-15:00

日本における大規模農業経営形成の特質と要因

○谷口憲治(島根大学名誉教授)

休憩 15:00-15:15

時刻帯J(15:15-16:45) 座長：田 阡・谷口憲治(中国農村経済)

15:15-15:45

自主遷移の郷土特徴 —武陵山区にあるW村の遷移を中心に—

○王 明月(西南大学歴史文化学院)

15:45-16:15

中国農民における「脱貧困」の実践 —武陵山区の「黄連農」を中心に—

○田 阡(西南大学歴史文化学院民族学院)

分科会1終了, 休憩 16:45-17:00

時刻帯 0 (17:00 - 18:15) 司会：伊藤勝久
総括討論及び講評

【分科会 2：生物資源科学部 1号館 101 講義室，報告数 11】
時刻帯 K (9:00 - 10:30) 座長：田 銘興・上園昌武 (自然エネルギー利用)
9:00 - 9:30
農山村におけるエネルギー自立地域の意義と可能性
○上園昌武 (島根大学法文学部)
9:30 - 10:00
太陽光発電と砂漠化対策 - 民勤県を例に -
○田 銘興 (蘭州交通大学)
10:00 - 10:30
甘肅省風力発電設備整備と砂漠化防止
○関 永智 (蘭州交通大学)

休憩 10:30 - 10:45

時刻帯 L (10:45 - 11:45) 座長：山岸主門 (音楽と農業)
10:45 - 11:15
寧夏における民族民間音楽の保護と伝承に関する研究
○劉 明 (寧夏大学音楽学院)
11:15 - 11:45
環境教育にむけての文化交流の試み - 農・音楽を中心として -
○木村康彦¹・松本一郎²・山岸主門¹ (¹島根大学生物資源科学部, ²島根大学教育学部)

昼食 11:45 - 13:00

時刻帯 M (13:00-15:00) 座長：一戸俊義・張 旭 (畜産，飼料及び草本類)
13:00 - 13:30
樺条の利用現状とその飼料加工技術を探る
○張 旭 (内モンゴル農業大学)
13:30 - 14:00
灘羊繁殖雌の妊娠及び泌乳に要するタンパク質充足率の再検討
- 中国肉羊飼養標準と連合王国飼養標準との比較 -
○一戸俊義・深町郁李 (島根大学生物資源科学部)
14:00 - 14:30
ツァイダム盆地のクコ生産加工における複合酵素製剤の応用研究について
○邱 丹 (青海師範大学生命与地理科学学院)
14:30-15:00
髪菜の資源価値及び生態環境保護に関する研究
○王 俊 (寧夏大学民族預科教育学院)

休憩 15:00 - 15:15

時刻帯 N (15:15 - 16:45) 座長：関 耕平 (中国の年金保険)，胡 躍高 (森林バイオマス調査)
15:15 - 15:45
Study on Ningxia new rural social pension insurance opinion polls
-Case of Ningxia Ping Luo, Helan, Huaxi Village's old-age insurance survey-
○Xu Xiaomei (南京理工大学人文与社会科学学院)
15:45 - 16:15
中国農村住民の社会養老保険モデルの選択と経験
○雷 曉康 (西北大学公共管理学院)

分科会 2 終了，17:00 より生物資源科学部 1号館 203 会議室にて，総括討論及び講評

I - 2 第11回 日中学術国際セミナーの開催



2013年10月21日～23日の日程で、第11回日中学術国際セミナーが寧夏大学で実施された。島根大学からは小林学長、竹内理事、安藤国際交流センター長、小村学術国際部長をはじめ、生物資源科学部、法文学部、教育学部の教員・大学院生10名が参加した。今回のセミナーは、島根県と寧夏回族自治区友好交流締結20周年の一連の行事と日程を合わせて行われたため、島根県副知事を団長とする島根県の関係者、またNPO法人日本寧夏友好交流協会のメンバーなど市民の友好交流団もセミナー開会式、共同研究所図書館の開所式、及び同図書館の見学に参加した。

開会式では、小林島根大学長、何寧夏大学校長が両校の友好と学術の発展のために本セミナーが大きな役割を果たしていると挨拶し、両校の友好提携を確認した。

開会式では、小林学長が特別講演として、島根大学概要の説明と各学部で行われている特徴的研究をアピールし参加者の関心を集めた。次いで、基調講演が行われ、寧夏大学経済管理学院高桂英教授は「中国内陸地域における気候変動への対応経験」と題し、寧夏で実施されてきた生態移民プロジェクトの意義について報告した。また島根大学法文学部関耕平准教授は「TPP参加と日本の農村」というテーマで、現下の課題であるTPP参加について農村の受ける影響と都市へのその影響の波及の問題を指摘し、豊かな農村のあり方として「むらの時間でときを刻む」ことの重要性を訴えた。

翌日から1日半にわたって、学術報告が行われた。報告数は約40本で島根大学の研究者と寧夏大学ほか4大学からの中国人研究者が参加し、十分な議論がなされた。最後に、島根大学生物資源科学部伊藤勝久教授が、セミナー全体の総括を行い、今後の課題として日中両国に関連する点として、地域開発における政府の役割や内発力醸成、気候変動への対応、環境意識の醸成方法及び地域住民の価値感、行動規範と宗教の関係などを指摘した。

セミナー全体については、報告数と報告者の範囲が徐々に拡大しているが、同分野の研究者の参加拡大が一層期待される。とくに自然科学系・技術系の報告における同分野の研究者がより多く参加することで、その議論も深まり実り多いものとなるという点が今後の課題である。次回2014年度のセミナーは島根大学で開催予定であり、多くの研究報告と参加者を期待している。

第 11 回 日中国際学術セミナーのスケジュール

10 月 22 日午前 第一会場

主題: 農学研究				
司会: 一戸俊義 教授			講評: 李建設 教授	
場所: 寧夏大学中日共同研究所三階			時間の割合: 発言 10 分間; 通訳 10 分間; 質疑応答: 10 分間	
時間	報告者	所属	職称	報告テーマ
8:30-9:00	一戸俊義	島根大学 生物資源科学部	教授	モミ付破碎飼料米を給与した黒毛和種去勢牛の肥育成績及び肉質評価
9:00-9:30	李 建設	寧夏大学科技処	教授	非耕地温室トマト栽培の微塩水浄化灌漑試験に関する研究
9:30-10:00	陳 彦雲	寧夏大学 生命科学学院	教授	中国馬鈴薯貯蔵加工産業の現状と発展方向
10:00-10:10	休憩			
10:10-10:40	宗村広昭	島根大学 生物資源科学部	副教授	水田代掻き期における営農活動と排水水質との関係
10:40-11:10	関 耕平	島根大学 法文学部	副教授	中国農村における農業用廃プラスチックの適正処理に向けた政策課題
11:10-11:40	米 康充	島根大学 生物資源科学部	副教授	リモートセンシングデータを用いた退耕還林・封山禁牧解析の可能性 II

10 月 22 日午前 第二会場

主題: 地域経済振興				
司会: 王鋒教授			講評: 周福盛教授	
場所: 寧夏大学 A 区行政事務ビル 6 階会議室			時間の割合: 発言 10 分間; 通訳 10 分間; 質疑応答: 10 分間	
時間	報告者	所属	職称	報告テーマ
8:30-9:00	徐 永富	寧夏回族自治区 科学連合会	教授	中国新農村建設と農村社会自然経済持続可能な発展に関する思考
9:00-9:30	谷口憲治	島根大学	教授	日本と中国における農業産業化の現状と課題 -日本における農業の六次産業化を中心に-
9:30-10:00	李 鳴驥	寧夏大学 西部発展センター	副教授	寧夏生態移民都市化と区域水資源利用との呼応関係研究
10:00-10:10	休憩			
10:10-10:40	王 鋒	寧夏大学 中日国際共同研究所	教授	民族地域農村社会保障と民生改善問題についての調査研究—寧夏回族自治区を例として
10:40-11:10	彭 励	寧夏大学 生命科学学院	教授	医薬用甘草と野生資源保護に関する研究 — 寧夏を例として
11:10-11:40	周 福盛	寧夏大学教育学院	教授	西部農村地域小学校教師の職業意識問題と対策

10月22日午後 第一会場

主題:地域経済振興				
司会:周澤超教授			講評:宋乃平教授	
場所:寧夏大学中日共同研究所三階			時間の割合:発言 10 分間;通訳 10 分間;質疑応答:10 分間	
時間	報告者	所属	職称	報告テーマ
14:30-15:00	周 澤超	寧夏回族自治区 行政学院	教授	国際化を視野に入れた中国西部民族地域の社会文化持続可能な発展に関する研究
15:30-16:00	宋 乃平	寧夏大学西北土地退化と生態再建国家重点実証室育成基地	教授	寧夏塩池県におけるこの十年の植生動態と安定性についての研究
16:00-16:30	山岸主門	寧夏大学 生物資源科学部	教授	身近な竹を用いて 「人と自然」「人と人」を結ぶ
16:30-16:40	休憩			
16:40-17:10	徐 如明	寧夏回族自治区 行政学院	講師	グローバル化下での多国籍遊牧民族の生産生活持続可能な発展に関する研究 — 青海カザフ族を例として
17:10-17:40	張 小盟	寧夏大学 経済管理学院	教授	辺境地農村地域における農民の資金需要特性分析について
17:40-18:10	李 隴堂	寧夏大学資源環境学院	教授	西北民族地域生態文明建設評価指標システムに関する研究

10月22日午後 第二会場

主題:農村社会経済				
司会:左理教授			講評:胡霞教授	
場所:寧夏大学 A 区行政事務ビル 6 階会議室			時間の割合:発言 10 分間;通訳 10 分間;質疑応答:10 分間	
時間	報告者	所属	職称	報告テーマ
14:30-15:00	左 理	寧夏大学 経済管理学院	教授	寧夏生態移民区における農民生計の持続性に対する初歩的研究
15:30-16:00	胡 霞	中国人民大学	教授	持続可能な地域づくりとは何か? — 日本仁淀川流域の調査に基づいて
16:00-16:30	劉 七軍	北方民族大学 経済学院	副教授	水資源の制限から見る節水型農業発展ルートに関する研究--甘肅省永昌県を例にして
16:30-16:40	休憩			
16:40-17:10	蔵 志勇	寧夏大学 中日国際共同研究所	副研究員	日本におけるイスラム教とムスリムに関する研究
17:10-17:40	孫 萌	島根大学 人文社会学研究科	院生	中国農村における『大学生村官』の試みとその成果:大学生による農村再生の取り組み
17:40-18:10	田 思宇	島根大学 人文社会学研究科	院生	中国における新型農村医療保険の現状と課題—日本の経験からの示唆—

10月23日午前 第一会場

主題: 地域経済振興				
司会: 張玲教授		講評: 蘇東海教授		
場所: 寧夏大学中日共同研究所三階		時間の割合: 発言 10 分間; 通訳 10 分間; 質疑応答: 10 分間		
時間	報告者	所属	職称	報告テーマ
08:30-09:00	張 玲	寧夏大学教育学院	教授	課題に基づく農村国語教師の職業発展における研究 — 寧夏海原県農村小学校を個別な例として
09:00-09:30	田中奈緒美	島根大学 日中国際共同研究所	研究員	寧夏大学生の留学ニーズと島根大学における中国人留学生の生活状況について
09:30-10:00	蘇 東海	寧夏大学政法学院	教授	銀川市流動人口サービスの管理改善についての調査研究
10:00-10:20	休憩 寧夏大学 A 区行政事務棟 6 階会議室へ移動			
10:20-11:20	閉幕式 司会: 王鋒 教授 総括: 伊藤勝久 教授			

10月23日午前 第二会場

主題: 環境、社会、経済				
司会: 伊藤勝久教授		講評: 李進教授		
場所: 寧夏大学 A 区行政事務ビル 6 階会議室		時間の割合: 発言 10 分間; 通訳 10 分間; 質疑応答: 10 分間		
時間	報告者	所属	職称	報告テーマ
08:30-09:00	伊藤勝久	島根大学 生物資源科学部	教授	環境行動・環境教育活動と実践主体別特徴と課題 — 環境 NPO・一般市民及び学生の環境意識の比較から —
09:00-09:30	王 利中	内モンゴル師範大学	教授	1947 年～2000 年の内モンゴルの農業経済の変遷
09:30-10:00	李 進	寧夏大学 太陽エネルギー発電 実験室	教授	西部経済発展と環境汚染問題解決に関する研究 — 寧東エネルギー基地を例として —
10:00-10:20	休憩 寧夏大学 A 区行政事務棟 6 階会議室へ移動			
10:20-11:20	閉幕式 司会者: 王鋒 教授 総括: 伊藤勝久 教授			

Ⅱ 日中学術共同調査と共同研究等の成果

Ⅱ - 1 第10回セミナー後の日本における農村調査

セミナー終了後、5月13-15日にかけて、日本の中山間地域へ合同で調査を実施した。主な調査先は雲南市にある吉田ふるさと村、食の杜、岡山県真庭市である。

調査第1日目に訪問した第三セクターである吉田ふるさと村は、農産物加工を中心として農村における雇用の維持と拡大に貢献している。この企業理念や経緯を観光事業部主任の石原氏よりレクチャーしてもらった。また、食の杜においては、日本における有機農業の草分け的存在である佐藤忠吉氏、前本研究所所長の井口隆史氏よりレクチャーいただいた。

二日目はバイオマスタウンとして有名な岡山県真庭市において、特に牧畜や天ぷら油の利用によるバイオディーゼル、牛糞尿の堆肥化施設などを回った。

いずれの調査先においても中国でも参考になる施設や取り組み例があり好評で、活発に質疑が行われ、時間が足りないほどであった。

調査日程概要：

5/13 (月)

島根大学学長 松江市長 島根県知事への表敬訪問
松江城 堀川遊覧 など
出雲湯村温泉 清嵐荘泊

5/14 (火) 雲南市内にて地域再生の取り組みを視察

9:00~11:30 吉田ふるさと村、鉄の歴史館
12:00~13:30 昼食 食の杜
13:30~15:30 食の杜、木次乳業視察
17:00 岡山県湯原温泉到着 【宿泊先：湯原国際観光ホテル菊之湯】

5/15 (水)

9:00 会場集合 真庭観光連盟ガイドと合流
9:00~10:00 真庭市におけるバイオマスタウン構想の概要等 (市役所担当課より)
【会場：国際観光ホテル菊之湯会場】
10:15~11:00 湯原町旅館協同組合 【会場：EDF給油ステーション前】
①バイオディーゼル燃料精製について
②湯原温泉街での取り組み
③バイオディーゼル車の見学
11:45~12:00 ひるぜんジャージーランドにてジャージー牛放牧風景を見学
(ジャージー乳で全国区「蒜山酪農組合」直営のレジャー施設。
蒜山三座を望む放牧エリア)
12:15~13:15 蒜山高原にて昼食 【会場：ウッドパオ】
13:35~14:10 真庭市蒜山堆肥センター 【真庭市蒜山西茅部 1154-31】
おが屑を活用した牛の糞尿の堆肥化見学
15:00 頃 湯原温泉到着予定 高速道移動 大阪市内へ向けてバス帰路
大阪駅周辺にて夕方解散

Ⅱ－２ 住友財団研究助成による劉学武先生の調査受入れ

6月16日～24日、劉学武（Liu Xuewu, 寧夏大学生布施発展研究センター研究員）と蔵志勇（Zang Zhiyong, 島根大学・寧夏大学国際共同研究所中方研究員）の島根県の農協視察を受け入れた。受け入れに対応したのは、伊藤勝久と谷口憲治であった。

この間の行動は以下のとおりであった。

- 6月16日 旅行日 北京→関西空港→松江市
 - 6月17日 島根県内 農協調査 ・島根農協中央会（谷口案内）
 - 6月18日 島根県内 農協調査 ・全農島根県本部 ・斐川町農協（谷口案内）
 - 6月19日 島根県内 農協調査 ・雲南農協 ・やすぎ農協（谷口案内）
 - 6月20日 旅行日 松江市→東京（移動）（谷口案内）
 - 6月21日 東京都 農協調査 ・全農（全国農業協同組合連合会）（谷口案内）
 - 6月22日 東京都 農協関連資料収集
 - 6月23日 都市周辺 農村調査
 - 6月24日 旅行日 成田空港→北京（帰国）
- 以下は劉先生の住友財団への申請書から抜粋

[研究テーマ]：島根県と寧夏における農村経済合作組織発展中の政府行為に関する研究

[所属組織]：宁夏大学 西部発展研究中心

[研究背景、内容と目標]

1. 研究背景

寧夏の農村経済合作組織の持続可能な発展力を促進するために、類似な自然条件の日本の島根県が参考対象と選択して、中日両国にての現地調査を通じて、島根県の地方政府から農村経済合作組織の管理に対する良い経験、より良い成功事例や改善手法などを研究するとともに、寧夏政府に有益な提案を提供したいと考える。

2. 研究内容

(1) 島根県と寧夏における農村合作経済組織発展中の政府行為の参与状況

具体的には以下の4点。①農村合作経済組織の発展状況、②農民の農村合作経済組織への加入需求に関する分析、③両地の政府による農村合作経済組織の事務に参与の方式と農村合作経済組織への政府参与、④農民から合作経済組織行為への政府参与の認識と評価

(2) 島根県、寧夏における農民経済合作組織発展中の政府行為の差異及び原因の分析

具体的には以下の2点。①農村合作経済組織発展中での両地政府行為の差異、②政府行為に存在している問題の原因に対する分析

(3) 農民合作経済合作発展中での政府行為を改善すべき対策と提案

3. 研究目標

寧夏の新型農村合作経済組織の現地調査に基づいて、農村合作経済組織発展中の政府行為現状と政府行為にある問題について、寧夏の新型農村合作経済組織が順調に発展と政府行為の改善を提案する。

Ⅱ - 3 崔永杰先生（西北農林科技大学機械電子工学部）による調査の受入れ

西北農林科技大学への訪問に際して大変お世話になった崔先生より、島根県における調査の依頼があった。キウイ収穫ロボット、キウイ自動選別、植物工場を視野に入れた園芸施設自動化装置の研究開発、画像処理、自動化装置の開発などをメインの研究テーマとしていることから、島根大学の研究者との交流・意見交換を希望されたが、カウンターパートとして適切な相手を提示することができなかつたため、隠岐の島・海士町における CAS システムの視察を実施することとした。対応は関を中心に行った。

8月28日に来松、翌29日には海士町へ移動し、CAS システムの導入の経緯とその活用状況に関して詳細なヒアリング調査を実施した。また、崔先生は一戸副所長と西北農林科技大学の共同研究者との情報交換の橋渡しを担っていただき、その後の研究連携強化にとっても重要な訪問となった。

◆日程概要

8月28日 15:35 出雲空港着 出雲大社他 両副所長と交流 松江市内宿泊

8月29日 フェリーにて海士町（関同行）

14:00~16:30 CAS システムに関するヒアリング（海士町産業振興課・大江氏）

8月30日 フェリーにて松江市 伊藤所長/一戸副所長と交流会 翌日、福岡へ移動・帰国

Ⅱ - 4 牧畜関係の共同研究の進展

崔先生とのやり取りの中で、西北農林科技大学の牧畜領域の研究者との研究連携に向けて、急遽9月に一戸副所長が訪寧することとした。

◆日程：9月22日～9月26日

- ・参加者： 一戸俊義
- ・訪問先： 寧夏回族自治区畜牧工作站
寧夏吳忠市 紅寺堡区 西北農林科技大学指定羊飼育場
モンゴル オルドス 中国国家毛用羊産業技術体系綜合実験所
- ・実施内容： 西北農林科技大学の Chen Yulin 教授、Yang Yuxin 副教授と共に現地視察及び島根大学生物資源科学部 動物生産学研究室と共同で実施する研究内容（灘羊の肉質改善を可能とする新規飼養管理システム）について協議を行った。あわせて、H26年度の科研費申請内容についての協議を行った。
- ・面談者： Chen Yulin（西北農林科技大学教務所所長）
Yang Yuxin（西北農林科技大学動物科技学院）
Luo Xiaoyu（寧夏回族自治区畜牧工作站所長）
Niu Wenzhi（寧夏回族自治区畜牧工作站）
Liu Dongjun（内モンゴル大学動物科学院）

II - 5 6月の寧夏現地調査の実施

6月1日～3日の日程で、日中間の政治問題で現地調査が困難になっていた科研調査について、寧夏大学において対応策を検討し、またカウンターパート及び関連機関の担当者から、農村問題、農牧業、環境政策、環境教育の現状について報告していただき、協議を行った。(詳しくは、III - 1 研究交流活動、III - 1 - 1 科研研究および西部学術ネットワーク形成に向けた研究交流 を参照のこと)

II - 6 10月の寧夏現地調査の実施

10月の日中国際セミナー、島根県・寧夏回族自治区交流20周年、研究所図書館開所式に合わせて、科研研究のアンケート対象地の視察を行った。

参加メンバーは以下の通りであった。

生物資源科学部：伊藤勝久、谷口憲治、一戸俊義、米康充、宗村広昭

教育学部：松本一郎

法文学部：関耕平、菊池慶之、孫萌（大学院留学生）、田思宇（大学院留学生）

現地調査に先立ち、カウンターパートの先生（農村班：劉学武、農牧班：閻宏、環境政策班：張小盟、環境教育班：李龍堂）から委託調査として依頼したアンケートの実施対象地について概況の説明をしてもらい、その後、10/24 塩池県（花馬池鎮李記沟村園區、盈徳行政村惠澤村、官灘村）、10/25 紅寺堡移民地区（開元村、壹加壹農牧公司）を視察した。

以下、日程表及び事前に提出した調査申請・希望である。

調査研究申請書 （申請者→国際共同研究所）

申請日 2013年 9月 27日

1 研究テーマ				
<ul style="list-style-type: none"> ・農村の人々の社会的紐帯と環境規範に関する基礎調査 ・持続可能な農村地域対策に関する社会実験の可能性検討 				
2 代表者（島根大学関係者に限る）				
..(ふりがな).....いとうかつひさ.....				
氏名	伊藤 勝久	所属	島根大学生物資源科学部	職 教授
住所	〒690-8504 松江市西川津町 1060			
3 共同研究メンバー（日本側）（ない場合は無記入）				
氏名	所属	職	生年月日 年/月/日	パスポート No.
・			/ /	
・			/ /	
4 共同研究メンバー（中国側カウンターパート）				

氏名	所属	職
・劉学武	寧夏大学 西部発展研究センター	研究員
・徐永富	寧夏社会科学界連合会	主席
ない場合→カウンターパート探索 (※探索費用が発生する可能性あり)		<input type="checkbox"/> 必要 分野・専門： <input checked="" type="checkbox"/> 不要
5 調査研究の概要		
(1) 調査日程 (予定) 10月24日 木曜日～ 10月25日 金曜日 / (2) 日間		
(2) 調査の具体的内容 (目的、対象、地域、方法など) ※できるだけ詳しく ①現地調査…銀川市永寧県または呉忠市(日帰り可能な所)の調査対象農家の視察、補足調査(劉研究員) <ul style="list-style-type: none"> ・視察・補足調査対象…リーダー層農家、出稼ぎ経験者の若手農家、在村の若手農家 (人数は適宜) ・調査項目…農家実態、帰属意識・愛郷心、環境意識、環境規範、その他 ・調査は面接で (通訳を介して) ②寧夏社会科学界連合会…社会実験の協力依頼 (徐主席) <ul style="list-style-type: none"> ・政策立案の方法 ・社会実験 (新たな農業技術の採用、環境ルールの採用) の可能性の協議 		
(3) 調査研究遂行上の予想される問題 農村の視察、農家の補足調査対象者の選択。		(4) 調査研究費用の支弁方法 科研
6 調整連絡に関する手配事項 ※手配が必要な項目の□にチェックを入れ、()に数字を書き入れてください (※調整連絡費用が発生する可能性あり ※要求事項がすべて実現されるとは限らないことをご理解ください)		
(1) <input checked="" type="checkbox"/> 通訳 (1) 人 <input type="checkbox"/> 宿泊 シングル () 部屋 / ツイン () 部屋 <input type="checkbox"/> 車 (1) 台		
(2) その他の手配 (特殊な準備など)		(3) 調整費用の支弁方法
7 その他・特記事項		

調査研究申請書 (申請者→国際共同研究所)

申請日 2013年9月30日

1 研究テーマ
寧夏中部乾燥地帯における養羊園區の営農形態、環境負荷対策及び環境教育の調査
2 代表者 (島根大学関係者に限る)

..(ふりがな).....いちのへ.....としよし 氏名 一戸 俊義 所属 生物資源科学部 職 教授 住所 〒690-8504 松江市西川津町 1060				
3 共同研究メンバー（日本側）（ない場合は無記入）				
氏名	所属	職	生年月日 年/月/日	パスポート No.
・谷口 憲治 ・米 康充	島根大学 生物資源科学部	名誉教授 准教授		
4 共同研究メンバー（中国側カウンターパート）				
氏名	所属	職		
・閻 宏	寧夏大学	教授		
ない場合→カウンターパート探索 （※探索費用が発生する可能性あり）		<input type="checkbox"/> 必要 分野・専門： <input type="checkbox"/> 不要		
5 調査研究の概要				
(1) 調査日程（予定） 10月24日木曜日～10月25日金曜日 / (2) 日間				
(2) 調査の具体的内容（目的、対象、地域、方法など）※できるだけ詳しく 既往の科研ワークショップにおいて、寧夏では羊飼養頭数の増加と企業の肥育経営（メガファーム化）が推進され、さらに農村経済改善を進めるうえで、養羊園区を形成して羊舎飼いの集中化も推進されているとの説明を受けた。園区は、小額貸付を中心とする農村金融組織の役割と同時に、営農業指導、環境教育など多面な役割を担っている。今回は、塩池県の大規模園区を訪問し、営農、環境に対する面源汚染の程度についての聞き取り調査を行い、生態回復を含めた環境教育の方向性を検討する。また、塩池県畜牧局担当者、銀川市の寧夏回族自治区畜牧工作所担当者からの説明と資料提供を受ける。				
(3) 調査研究遂行上の予想される問題			(4) 調査研究費用の支弁方法 科研費（代表：伊藤勝久）	
6 調整連絡に関する手配事項 ※手配が必要な項目の□にチェックを入れ、()に数字を書き入れてください （※調整連絡費用が発生する可能性あり ※要求事項がすべて実現されるとは限らないことをご理解ください）				
(1) ■通訳 (1) 人 ■宿泊 シングル (3) 部屋（調査者のみ） ■車 (2) 台（通訳者の乗車を含む）				
(2) その他の手配（特殊な準備など） 塩池県畜牧局及び自治区畜牧工作所担当者への面談受け入れと日程調整。調査団（通訳を入れて総員6名）の移動手段の手配。			(3) 調整費用の支弁方法 科研費（代表：伊藤勝久）	

7 その他・特記事項
今回の訪問団 3 名は、専門分野がそれぞれ異なる。一戸は羊飼養と飼料、谷口名誉教授は農業経済、米准教授は森林計測が専門である。養羊園区、営農、糞尿資化、環境教育、生態回復をキーワードとし、対応が可能な行政機関の担当者との面談を調整いただきたい。

調査研究申請書 (申請者→国際共同研究所)

申請日 2013年 9月 30日

1 研究テーマ				
流域内営農活動等が流出水環境に与える影響評価				
2 代表者 (島根大学関係者に限る)				
.....(ふりがな)..... そうむら ひろあき.....				
氏名	宗村 広昭	所属	生物資源科学部	職 准教授
住所	〒690-8504 島根県松江市西川津町 1060			
3 共同研究メンバー (日本側) (ない場合は無記入)				
氏名	所属	職	生年月日 年/月/日	パスポート No.
.			/ /	
4 共同研究メンバー (中国側カウンターパート)				
氏名	所属	職		
・張源沛 先生	寧夏農林科学院農業生物技術研究中心	教授		
ない場合→カウンターパート探索 (※探索費用が発生する可能性あり)	<input type="checkbox"/> 必要 分野・専門 : <input type="checkbox"/> 不要			
5 調査研究の概要				
(1) 調査日程 (予定)				
10月 20日 日曜日～ 月 日 曜日 / (1) 日間				
(2) 調査の具体的内容 (目的、対象、地域、方法など) ※できるだけ詳しく				
銀川市内の営農活動や灌漑施設等の視察を行い、農業、灌漑や水環境の概観を把握する。 (全く何も知識が無いので、一からの出発です。) 黄河からの取水や黄河への排水地点・関連施設が見れるとうれしい。				
(3) 調査研究遂行上の予想される問題			(4) 調査研究費用の支弁方法	
宗村は中国語が一切話せません。それが一番の問題です。				
6 調整連絡に関しての手配事項 ※手配が必要な項目の□にチェックを入れ、()に数字を書き入れてください				
(※調整連絡費用が発生する可能性あり ※要求事項がすべて実現されるとは限らないことをご理解ください)				

(1) □通訳 () 人 □宿泊 シングル () 部屋/ツイン () 部屋 □車 (1) 台	
(2) その他の手配 (特殊な準備など)	(3) 調整費用の支弁方法
7 その他・特記事項	
一戸先生よりカウンターパートのご推薦を頂きました。ただ面識がありませんので、張先生がお引き受けしてくれるかどうかは不確かです。	

2013/09/30

「環境政策グループ」の調査研究申請書

要望事項：

1. 張小盟先生実施のヒアリング・アンケート調査への同行・参加と共同実施
2. 菊池先生との CP の模索、今後の研究の方向性についての意見・情報交換

メンバー：関耕平、菊池慶之、孫萌、田思宇

(張先生の調査日程が合わない場合は、別の班と行動をとめます。)

1. 張小盟先生実施のヒアリング・アンケート調査への同行と共同実施

◆現地調査先：ホウヨウ県(張先生実施予定の村)

1. 役場でのヒアリング(可能であれば実施)
 - 1) 防治荒漠化について
 - ①現在、荒漠化の影響(生活上、農牧畜生産上)
 - ②村の防治荒漠化対策の現状と計画
 - ③防治荒漠化対策への期待と今後の見通し
 - 2) エネルギー・電力需要について
 - ①村のエネルギー・電力消費の現状
 - ②村のエネルギー・電力の需給計画及び政策
 - ③村の再生可能エネルギーの使用状況
 - ④村の再生可能エネルギー開発計画、今後の開発可能性
 - 3) 農業用ビニール・プラスチック資材の購入・使用・回収について
 - ①村での農業用ビニール・プラスチック資材の使用状況
 - ②村での農業用ビニール・プラスチック資材廃棄物の回収体制及び回収実績
 - ③農業用ビニール・プラスチック資材廃棄物対策への政策評価
 - ④今後の農業用ビニール・プラスチック資材廃棄物対策の見通し
 - 4) 村が直面している環境問題、村の最重要の環境問題は何か
2. 農家ヒアリング(アンケートの実施を中心として、その中で情報収集ができれば)
 - 1) 防治荒漠化について
 - ①現在、荒漠化の影響(生活上、農牧畜生産上)
 - ②(移民者に)移住前の村で、荒漠化の影響(生活上、農牧畜生産上)
 - 2) エネルギー・電力の需要と供給について
 - ①家庭でのエネルギー・電力の消費状況
 - ②農業用(産業用)エネルギー・電力の消費状況
 - ③エネルギー・電力に困っていること、希望すること
 - 3) 農業用ビニール・プラスチック資材の購入・使用・回収について
 - ①自家での農業用ビニール・プラスチック資材の使用状況
 - ②農業用ビニール・プラスチック資材廃棄物の回収体制及び回収実績

- ③農業用ビニール・プラスチック資材廃棄物で困っていることは何か
- ④農業用ビニール・プラスチック資材廃棄物対策に望むことは何か
- 4) 農家が現在、最も困っている環境問題は何か、最も望んでいる環境対策は何か

2. 菊池先生とのCPの模索、今後の研究の方向性についての意見・情報交換 (優先順位順)

1. 経済地理学、都市地理学、不動産市場、住宅マーケットをキーワードとした研究を実施している研究者との意見・情報交換、資料の提供
2. 当該領域の政府担当者との情報交換、資料提供
3. オフィスビル（民間企業の入居がある）の見学・視察
4. 住居・商業施設一体型の都市開発区の視察
5. 地図の購入

《日程表》

日程	菊池慶之 島根大学 法文学部	伊藤勝久 島根大学 生物資源科学部 (研究所所長)	谷口憲治 島根大学 名誉教授	一戸俊輔 島根大学 生物資源科学部 (研究所副所長)	関耕平 島根大学 法文学部 (研究所副所長)	宗村広昭 島根大学 生物資源科学部	松本一郎 島根大学 教育学部	山岸主門 島根大学 生物資源科学部	米康充 島根大学 生物資源科学部	孫 萌 島根大学留学生 法文学部	田思宇 島根大学留学生 法文学部						
10月19日	土	出雲-伊丹JAC2342 0855 0945 関西-北京CA928 1350 1600 北京-銀川CA1263 1815 2010									C23345、大連(12:25)-銀川(18:10)	0945 銀川到着					
10月20日	日	午前 午後 夜	カウンターパートと科研打合せ				水理灌漑施設視察 張源沛先生と水田や水利灌漑施設視察	カウンターパートと科研打合せ	出雲-伊丹JAC2358 1900-2000 伊丹-難波-りんくうタウン前泊	時刻未詳、前泊	カウンターパートと科研打合せ(通訳)						
10月21日	月	午前 午後 夜	午前中: 科研打合せ				午後: 日中国際セミナー開会式、研究所図書館開所式、基調報告(小林学長、高、関)			関空-北京 900頃発 北京-銀川 1630着	午前中: 科研打合せ(通訳) 午後: セミナー開会式、研究所図書館開所式、基調報告						
10月22日	火	午前 午後	日中国際セミナーレセプション(寧夏大学)														
10月23日	水	午前 午後	セミナー個別報告1日目														
10月24日	木	午前 午後	セミナー個別報告2日目														
10月25日	金	午前 午後	午後: 西部学術ネットワーク関係(プロジェクト研究 共同提案・調印)														
10月26日	土	午前 午後	農村現地調査(政府関係調査(関預と同行))	農村現地調査(伊藤班)	農村現地調査(一戸班) (塩池 泉 治)	農村現地調査(関班)	銀川-北京CA1218 1010 1155 北京-関西CA161 1600 2030 (大阪泊)	銀川-北京CA1218 1010 1155 北京-関西CA161 1600 2030	農村現地調査(一戸班 と同行)	農村現地調査(一戸班)	農村現地調査(関班)通訳						
10月27日	日	午前 午後	農村現地調査(政府関係調査(関預と同行))	農村現地調査(伊藤班)	農村現地調査(一戸班)	農村現地調査(関班)	伊丹-出雲JAC2341	大阪(阪急梅田)22:50-松江駅6:45 夜行バス	農村現地調査(一戸班 と同行)	農村現地調査(一戸班)	農村現地調査(関班)通訳						
10月28日	月	午前 午後	午前中: 科研打合せ				午前中: 科研打合せ			銀川-北京 0745出発 北京-大連(大連泊)	銀川-北京 0745出発 北京-大連(大連泊)						
10月29日	火	午前 午後	北京-関西CA 927 0840 1240 伊丹-出雲JAC2357 1705 1755				上海-関空(時刻未詳)			北京-関西CA 927 0840 1240 伊丹-出雲JAC2357 1705	大連-大阪(時刻未詳)						
セミナー報告タイトル	環境行動・環境教育 日本と中国における農業産業化の現状と課題 一環境NPO・一般市民および学生の環境意識の比較から—											モミ付破砕飼料米を給与した黒毛和程去勢牛の肥育成績及び肉質評価	水田代掻き期における営農活動と排水水質との関係	身近な竹を用いて「人と自然」「人と人」を結ぶ	遊耕遅林・封山禁牧、リモートセンシングによる寧夏銀川周辺の10年間の土地被覆変化について	中国における新型農村医療保険の現状と課題— 日中との経験からの示唆—	中国農村における「大学生村官」の試験合格の現状と課題— 日中との経験からの示唆—

10/20 カウンターパートとの打ち合わせ
班メンバー カウンターパート

- ①農村班 (伊藤勝久) 伊藤 劉学武
- ②農作業班 (谷口憲治、一戸俊輔) 谷口、一戸、米孫 関宏
- ③環境政策班 (関耕平) 関、菊池、(田) 張小盟
- ④環境教育班 (松本一郎、山岸主門) 松本 李隴堂

10/20 水理灌漑施設視察

宗村 張源沛先生と水田や水利灌漑施設視察

10/24-25 現地見学について
班メンバー カウンターパート 行先希望

- ①農村班 (伊藤勝久) 伊藤 劉学武 銀川近郊農村、吳忠市農村
- ②農作業班 (谷口憲治、一戸俊輔) 谷口、一戸、米孫 関宏 塩池農山村、園區
- ③環境政策班 (関耕平) 関、菊池、(田) 張小盟 自治区環境関連部署、銀川市内非農家
- ④環境教育班 (松本一郎、山岸主門) 現地視察なし

Ⅱ - 7 研究費の獲得

(1) 基盤 (B) 「中国低開発農村の持続可能な新システムの形成と定着に関する研究」

2012-2014 年度 (3 年間)、2013 年補助金・助成金 520 万円、2012 年補助金・助成金繰越分 310 万円、代表 (課題番号 24405048) (科研メンバー: 伊藤勝久、谷口憲治、一戸俊義、山岸主門、保母武彦、上園昌武、関耕平、松本一郎)

◆研究の目的:

中国農村における社会発展、住民の安定定住、持続的農業及び環境意識の形成は、中国の国内問題解決だけではなく、国際的食料不足への対処としての意義があり、また強度の自然資源収奪の緩和、砂漠化防止、水資源確保、さらに黄砂の飛来を防止するために重要な課題である。

本研究では、農村の安定的発展を促す新しい農業システム・環境対策の受容可能性に関して、とくに社会科学面から協同意識、農民小金融、ソーシャルキャピタル、環境意識形成などの面から、中国側研究者と研究を進め、農村に新システムを定着させることを目的とする。中国の条件不利農村地域の農林牧業の持続可能性に加え、環境修復をキーワードとして、以下 3 点の研究に取り組む。

(a)地域に適合し住民の安定定住を促す農林牧業システム及び環境対策を検討開発すること。(b)持続可能な新しい農村社会システムの制度設計を示唆すること。及び(c)地域農民の環境教育と社会実験による確認をしながら、新農村社会システムの定着、環境対応意識の促進を啓発する方法を検討することである。

(2) 島根大学戦略的研究推進センター特別研究「寧夏プロジェクト」

予算: 年間 210 万円

概要: 島根大学と寧夏大学の長年の研究・教育の交流に基づき、2005 年、寧夏大学構内に島根大学・寧夏大学国際共同研究所が設立された。こうした研究条件を活かしつつ、本プロジェクトにおいては、日中両国の条件不利地域における経済・社会・生態の改善に関する理論・政策研究を日中共同で実施し、若手研究者の教育・交流や中国西部地域研究の拠点作りを目指す。

(3) 日本学術振興会 平成 25 年度科学研究費助成事業 (奨励研究)

課題名: 初対面会話における話題転換に関する日中対照研究

研究代表: 田中奈緒美 期間: 2013 年度 (1 年間) 経費: 50 万円

研究の目的:

日本語母語話者と中国語母語話者が会話をする際に起こるコミュニケーション摩擦の原因を探るため、中国語母語話者が話す日本語の話題転換方法における母語の影響について調査研究する。具体的には、中国語と日本語の「会話における話題転換方法」のそれぞれの特徴を解明し、両者を比較考量し、中国語母語会話で用いられる話題転換パターンの量的出現傾向、及び話題転換ストラテジー (話題開始表現含む) の量的使用傾向について調べ、日本語母語会話との相違について明らかにする。

Ⅱ - 8 寧夏研究会の開催

科研に関して寧夏研究会延べ9回開催した。

- ① 4月18日(水) 18時～20時 生物資源科学部2号館5階 535号室
研究報告 松本一郎「環境教育の関係文献レビュー」、関耕平「環境対策関係」
- ② 5月21日(火) 18時～ 生物資源科学部2号館5階 537会議室
議題 1.アンケート集約化のための調査設計の検討
(6月調査に際し4グループのアンケートを相互乗入で集約するため)
- ③ 5月22日(水) 18時～20時 生物資源科学部2号館5階 537会議室
話題提供 ①関耕平「環境政策について」、②谷口憲治・劉海濤「農村小金融について」
その他 1.現地調査・政府機関調査の調査先の確認
- ④ 7月16日(火) 18時～19時30分 生物資源科学部2号館5階 537号室
議題 1.寧夏での調整の結果報告
2.科研調査計画の変更について
- ⑤ 10月16日(水) 18時～19時30分 生物資源科学部2号館5階 537号室
議題 1.科研研究の進捗と今後の方針について
2.セミナーについて(セミナー報告予定者から内容を紹介)
3.研究経費について
- ⑥ 11月11日(月) 18時～19時30分 生物資源科学部2号館5階 537号室
議題 1.農家アンケートの委託調査について(分析した結果の報告)
2.今後の方針について
- ⑦ 12月16日(月) 18時～ 生物資源科学部2号館5階 537号室
議題 1.農家アンケートの分析報告(各班から)
2.今後の研究方針
- ⑧ 1月30日(木) 18時～20時 生物資源科学部2号館5階 537号室
議題 アンケートの分析と今後の研究方向
- ⑨ 2月24日(月) 18時～20時 生物資源科学部2号館5階 537号室
議題 アンケートの分析結果の報告と今後の研究方向
各班から報告

II - 9 著書・論文等

・伊藤勝久（島根大学生物資源科学部教授・国際共同研究所所長）

【図書、論文】

Katsuhisa Ito, Changes in social capital and community functions in depopulated areas from case studies of 12 communities in the San'in district, Hans Westlund, Kiyoshi Kobayashi ed. "Social Capital and Rural Development in the Knowledge Society", Chapter6, 352 pp, Edward Elger Publishing (UK), 2013, ISBN 978 1 78254 060 1

伊藤勝久，農山漁村住民・移住者の幸福を形成するもの—海士町における事例から—，第10回日中学術国際セミナー論文集，2014.1

Katsuhisa Ito, Happiness of Life in Island - Measuring factors of happiness related with social capital and quality of life in the isolated island -, S. Westerdahl, H. Westlund and K.Kobayashi ed. "Social Capital and Development Trends in Rural Area Vol.8", Chapter13, 286pp. Jonkoping International Business School, Sweden, 2014, ISBN 978 91 86345 48 8

伊藤勝久，中山間地域の特性に基づいた山づくりの多様化と林業・林産業の振興方策，山林，No.1557, p2-11, 2014.2

【口頭報告】

伊藤勝久，農山漁村住民・移住者の幸福を形成するもの—海士町における事例から—，第10回日中学術国際セミナー，2013.5.11-12，島根大学

Katsuhisa Ito and Maki Fukushima, How should Japanese forests be managed with the broad participation of citizens? -Focusing on the forest tax and taxpayer intentions-, 10th Workshop of Social capital and Development Trends in the Swedish and Japanese Countryside, 16-18th May, 2013, Amakusa Kumamoto

伊藤勝久・宗亜麗，環境行動・環境教育活動と実践主体別特徴と課題—環境 NPO・一般市民および学生の環境意識の比較から—，第11回日中国際学術セミナー，2013.10.21-23，寧夏大学，中国

伊藤勝久・小菅良豪，真庭・津山地域の製材産地の変化と現状—原木流通と製材過程を中心に—，2013年林業経済学会秋季大会テーマ別セッション C「再生プラン後の森林管理・林業生産の変化と林業・山村」，2013.11.9，高知大学

伊藤勝久，雪国の農山村におけるソーシャル・キャピタルと生活満足度，島根大学重点研究プロジェクト報告会，2014.2.22-23，島根大学医学部

・一戸俊義（島根大学生物資源科学部教授・国際共同研究所副所長）

Tsutomu Fujihara, Toshiyoshi Ichinohe and Tadashi Harumoto (2013) Measurement of digestibility of cell wall constituents in grass and legume forages by an artificial rumen method. Bulletin of Faculty of Life and Environmental Science, Shimane University 18: 23-28.

Tsutomu Fujihara, Mayumi Hara-Iwakuni, D. J. Kyle, E. R. Orskov and Toshiyoshi Ichinohe (2013) Effect of feeding level and frequency on microbial protein yield in the rumen of growing lambs. Bulletin of Faculty of Life and Environmental Science, Shimane University 18: 29-39.

一戸俊義・深町郁李 (2014) 灘羊繁殖雌の妊娠及び泌乳に要するタンパク質充足率の再検討 - 中国肉羊飼養標準と連合王国飼養標準との比較 - . 第 10 回日中国際学術セミナー論文集 pp53-59.

一戸俊義 (2014) ヒツジの栄養、シリーズ (家畜の科学) ヒツジの科学、pp46-58. 朝倉書店、東京. (印刷中)

【口頭発表】

一戸俊義・深町郁李 灘羊繁殖雌の妊娠及び泌乳に要するタンパク質充足率の再検討 - 中国肉羊飼養標準と連合王国飼養標準との比較 - . 第 10 回日中国際学術セミナー (松江市、2013 年 5 月)

一戸俊義 モミ付破碎飼料米を給与した黒毛和種去勢牛の肥育成績及び肉質評価. 第 11 回日中国際学術セミナー (銀川市、2013 年 10 月)

Sanghoun Song, Da Hye Kim, Ki Choon Choi, Hiroe Urabe, Toshiyoshi Ichinohe Characterization of a novel ovine preadipocyte isolated from subcutaneous tissue. 第 36 回日本分子生物学会年会 (神戸市、2013 年 12 月)

一戸俊義 寧夏回族自治区中部乾燥帯で飼養されている繁殖雌灘羊のエネルギーと粗タンパク質充足率. 日本畜産学会第 118 回大会 (つくば市、2014 年 3 月)

・ 関耕平 (島根大学法文学部准教授・国際共同研究所副所長)

三好 ゆう・関 耕平「試算 TPP による農業生産・所得への影響：47 都道府県・19 品目を中心に」『経済』(217), 88-95 頁, 2013 年 10 月号

関 耕平・三好 ゆう「試算 TPP 参加による農業所得への影響：主要 8 品目を中心に」『経済』(215), 138-144 頁, 2013 年 8 月号

関耕平他「2014 年新春座談会 どうみる政府統一試算～TPP 参加による農業・農村への影響～」『しまね農政研』2014 年 1 月号

関耕平・三好ゆう「TPP 参加による地域経済格差の拡大と税財政の課題」租税理論学会(2013 年 11 月、同志社大学)

関耕平「TPP 参加と日本の農村：むらの時間でときを刻むことの重要性」第 11 回日中国際学術セミナー (銀川市、2013 年 10 月) 基調報告

関耕平・文銀・張小盟「中国農村における農業用廃プラスチックの適正処理に向けた政策課題」第 11 回日中国際学術セミナー (銀川市、2013 年 10 月)

・ 富澤芳亜 (島根大学教育学部教授)

富澤芳亜「論日本対中国棉紡織史研究的成果與課題」『東海歴史研究集刊』(台湾・東海大

学) 第1期、187~226頁、2013年9月。

富澤芳垂「1920至1930年代嚴裕棠家族經營的紡織企業」李培德編著『大過渡——時代變局中的中國商人——』商務印書館(香港)、142~183頁、2013年11月。

富澤芳垂「新聞記事から見る華北認識」本庄比佐子、内山雅生、久保亨編著『華北の発見』東洋文庫、79~102頁、2013年12月。

桑原哲也、富澤芳垂「内外綿上海支店長の回顧——田中朋次郎氏(内外綿)インタビュー——」(『近代中国研究彙報』第36号、~頁、2014年3月)。

・山岸主門(島根大学生物資源科学部准教授)

竹を用いた人と人とを結ぶ活動, 木村康彦・西坂美咲・山本匡彦・山岸主門. 農業生産技術管理学会誌, 20(別1): 65-66, 2013年10月(島根大学).

・宗村広昭(島根大学生物資源科学部准教授)

H. Somura, Y. Yone, Y. Mori, E. Takahashi (2013): Evaluation of small watersheds inflowing Lake Shinji against the water environment, 2013 International SWAT Conference (Toulouse).

Keynote Speech: Estimation of nutrient loadings from a river basin to a downstream lake, Korea AG-BMP Forum The 4th International Conference "AG-NPS Pollution Control and Local Community Development", 27 September 2013 Jeollabuk-do Provincial Government (Jeonju)

・氏川恵次(横浜国立大学大学院国際社会科学研究院准教授)

氏川恵次『環境・経済統合勘定の展開』青山社、2014年。

氏川恵次「新たな環境・経済統合勘定(SEEA2012)における構造・物的フロー・環境評価<特集: 国民経済計算関連統計の新たな展開>」『研究所報』No.43、2014年。

氏川恵次「日中地域間における生産・エネルギーの地域間産業連関分析」『中国研究月報』68巻3号、2014年。

・谷口憲治(島根大学名誉教授)

【論文】

劉海濤・谷口憲治「中国北西乾燥地域における園区型畜産経営の展開—寧夏回族自治区塩池県宏翔灘羊飼養園区を事例に—」『日本砂丘学会誌』第60巻第1号、平成25年7月、1~8頁

谷口憲治「日本の中山間地域における農業振興—多面的機能の継続的活用システム構築—」『菌蕈』第59巻第8号、平成25年8月5日、14~22頁

谷口憲治「資源循環型の地域づくり」井口隆史・榊瀧俊子編著『地域自給のネットワーク』コモンズ、2013年8月1日発行、134~154頁

- 谷口憲治「小規模農業ネットワーク化による地域経済発展システム」高橋信正編著『「農」の付加価値を高める六次産業化の実践』筑波書房、2013年12月9日発行、123～132頁
- 谷口憲治「日本における農業協同組合の現局面—農政主導の農協から自立農協への模索—」『グローバル経済下の東アジア諸国における農業協同組合の現局面』（鳥取大学大学院連合農学研究科日中韓合同国際シンポジウム報告要旨）、平成24年10月25日
- 谷口憲治「協同組合の存在意義と協同組合組織・機能の現状と課題」『しまね農政研NOSEIKEN』島根農政研究会、2012年11月、349号
- 馬健・小林一・谷口憲治・佐藤俊夫「中国東北・稲作地域における農地利用権の移動による農民專業合作社の展開と農業経営—吉林省梅河市のS農業專業生産合作社を事例として—」『農業問題研究』第44巻第2号、2013年1月
- 劉海濤・谷口憲治・鄭蔚・糸原義人「中国における農村小額金融組織の扶貧機能と展開条件—寧夏回族自治区塩池県小額貸付センターを事例に—」『農業生産技術管理学会誌』Vol.19No.4、2013年3月
- 谷口憲治「日本の中山間地域における農業振興—多面的機能の継続的活用システム構築—」『菌茸』第59巻第8号、平成25年8月5日
- 【講演】**
- 谷口憲治「農業産業化に関する日中比較」日中農業産業化座談会、中国海南省海口市・海南大学経済学院、2013年2月4日、10時～12時
- 谷口憲治「農業産業化における情報の役割に関する日中比較」中国熱帯農業科学院科技信息研究所学术交流会、中国海南省儋州市・中国熱帯農業科学院科技信息研究所、2013年2月5日、10時～12時
- 谷口憲治「日本農業・農村の現状と課題—農業産業化を中心に—」農業産業化に関する日中学术交流会、中国天津市西青区張家窩鎮政府會議室、2013年6月10日（月）、11時～12時
- 谷口憲治「日本における大規模農業経営形成の特質と要因」島根大学・寧夏大学国際シンポジウム、島根大学生物資源科学部1号館、平成25年5月12日（日）、13時30分～14時
- 谷口憲治「全国ブランドを生み出す農畜産業の成立・展開過程—地域資源活用による島嶼型農村経営—」島根大学法文学部山陰研究センター講演会、2013年5月18日（土）15時～16時30分 場所：島根大学会館三階會議室

Ⅲ 2013 年度研究所活動の記録

Ⅲ - 1 研究交流活動

Ⅲ - 1 - 1 科学研究及び西部学術ネットワーク形成に向けた研究交流

6月1-9日にかけて、寧夏大学、西北農林科技大学、西北大学、中国農業科学院、中国農業大学、JICA を回り、今後の西部学術ネットワークの形成に向けた協議を実施した。



寧夏大学において、10月の次回セミナーに合わせた現地調査実施に向けた協力依頼、協議を実施した。これまでのCPに加え、第10回セミナーにJICA研修員として参加した張源沛副主任(寧夏農林科学院農業生物技術研究中心)や寧夏社会科学界の徐永富氏も研究所に来ていただき、レクチャーいただくとともに、今後の協力を依頼し、快諾いただいた。

西北農林科技大学において、経済管理学院長の霍学喜氏と具体的な研究テーマや西部学術ネットワーク構想について意見交換した。学術ネットワークの形成に向けた積極的な提案をいくつかいただき、①生態環境形成事業の評価、②地域社会、社区問題、③貧困地域の社会保障・地域医療、④地球的気候変動と西部地域、といった主要な研究課題ごとに研究プロジェクトを編成して日本・中国、西部に関心ある研究者の参加を促すという方式が提起された。また、各班に分かれて、講演会及び研究テーマについての今後の協力体制についての協議を行った(保母、関、伊藤-経済管理学院)(一戸-畜産関係)(松本-環境教育関係)。

西北大学公共管理学院においても、講演会を実施し、今後の西部学術ネットワークの推進についての協力を依頼し、具体的な共同研究のテーマなどについて議論した。

つづいて、中国農業科学院 農業環境と持続可能な発展研究所と意見交換した。その際に今後の共同研究の推進が可能な研究領域として、以下のテーマが提示された。

1. 農業汚染の制御 清潔生産
2. 有機農業
3. 緑色投入品 新型肥料 新材料
4. 農業省エネ 施設や農地
5. 温室効果ガスの減少
6. 農村発展モデル 文化 貧困 教育 郷鎮の発展モデル

本研究所としても、新たに島根大学の研究者を動員して対応するなど、共同研究を進めていきたい旨を伝えた。

中国農業大学を訪問し、李志紅 副院長(農学と生物技術学院)、胡躍高氏と今後の西武学術ネットワークに関して協議を行った。中国科技部や中国農業部には国際合作資金とい

う、国際的な共同申請による研究資金がある。そこへの共同申請をすることや、シンポジウムの開催といった今後の展開について具体的に提起があった。

最終日には、JICA 中国事務所の宮崎卓副所長、高島亜紗調査官と面会し、5月セミナーに対する支援のお礼とともに、今後の研究所の活動について協議した。JICA としてはセミナーの開催や国際共同研究の進展だけではなく、中国の社会問題解決に具体的にどのような貢献があるのかという点を重視している。本研究所からは、今回の科研のテーマに掲げている、新たなシステムや技術の「社会への実装化」の視点を重視している点を強調し、今後の連携強化について相談した。

その後、2014年3月8日にも、北京にて昼食を挟みながら JICA 中国事務所の小中鉄雄所長、宮崎卓副所長と情報交換を行った。JICA としては環境問題の解決に関するソフト事業（環境教育など）は今後も重視していきたいとのことで、島根大学の PJ についても情報提供し、今後の情報交換を約束した。

■2013年6月中国行日程 詳細

	伊藤勝久	一戸俊義	保母武彦	関耕平	松本一郎
6/1 土 午前 午後	出雲 900⇒JC2342⇒950 伊丹 関西 1350⇒CA928⇒1600 北京 北京 1920⇒CA1263⇒2115 銀川 変更済み 【寧夏大学南門付近のホテル 泊】				
6/2 日 午前 午後	寧夏大学で 研究打合せ等	<ul style="list-style-type: none"> ・900～1030 運営会議 ・1040～ 謝副学長との会談(研究所関係、科研関係、西部ネットワーク関係) (この日の午後、謝副学長が北京へ出張) ・CP、研究協力者との打合せ 【寧夏大学国際交流中心 泊】			
6/3 月 午前 午後	寧夏大学で 研究打合せ、	<ul style="list-style-type: none"> ・時間未定(15分程度) 何校長へ表敬訪問(日中セミナーの報告と10月の島根大学長訪問) ・自治区教育厅との会談 【寧夏大学国際交流中心 泊】			
6/4 火 午前 午後	寧夏自治区等へ 協力依頼	<ul style="list-style-type: none"> ・寧夏社会科学界連合会を訪問、調査協力依頼(希望、詳細連絡なし)(飛行機の関係から1130頃までか) 			
		<ul style="list-style-type: none"> ・西安空港から楊陵へ移動(タクシーか西北農林科技大学の車) 【国際会展中心ホテル】			
6/5 水 午前 午後	西北農林科技大学 で 打合せ	<ul style="list-style-type: none"> ・午前中 ①島根大学側から農業・農村問題、環境問題、環境教育に関して各自の研究をもとに簡単な講演 ・午後 ②西北農林科技大学の先生から西北部の農業・農村問題、環境問題に関して研究成果をもとにレクチャーをしていただきたい。 ・午後 ③ ①、②をもとに、具体的な共同研究の可能性を検討する ・夕食を一緒にどうかと提案 【国際会展中心ホテル】			
6/6 木 午前	西北大学で打合せ	<ul style="list-style-type: none"> ・800頃 楊陵から西安中心部へ移動(タクシーか高速路線バス) ・1100頃 西北大学到着(雷先生と昼食しながら協議) 			

	午後	<ul style="list-style-type: none"> ・1400～1600「環境政策・環境経済」(保母)、「SC」(伊藤)について講演(1題講演60分、質疑30分) (対象は、西北大学教員、学生) ・1600～1700 西部ネット、共同研究について協議 ・その後夕食をしながら共同研究可能性の詳細について話し合い 【西安長征国際酒店 (西北大学近くのホテル)】	
6/7 金	午前	西安 830⇒CA1260⇒1025 北京	
	午後	JICA、 中国農業科学院 <ul style="list-style-type: none"> ・飛行機の遅れにより到着が午後 【1430頃 友誼賓館(3号楼(敬賓楼))に一旦チェックイン】 ・1530～1730 中国農業科学院(土岐専門家、楊先生、他数名)と協議 ・夕食未定 【友誼賓館 泊】	
6/8 土	午前	<ul style="list-style-type: none"> ・900～ 中国農業大学で今後の共同研究について協議(胡躍高先生、胡霞先生) ・1200～ 昼食(大学内) 中国農業大学	
	午後	<ul style="list-style-type: none"> ・午後 JICA(高島調査役、宮崎副所長)と協議 【友誼賓館 泊】	北京 1625⇒ CA161⇒2030 関西【伊丹 泊】
6/9 日	午前	北京 840⇒CA927⇒1240 関西	伊丹 745⇒
	午後	伊丹 1720⇒JC2357⇒1810 出雲	JC2341⇒835 出雲



Ⅲ-1-2 2014年3月の寧夏科研に関する協議

伊藤所長が訪寧し、今後の科研調査に関する調整・協議を実施した。

●全体的調整 (李紅副所長)

中国側：日中の国際問題から日本側主体の現地調査はまだ難しい。CPとの共同研究であれば今までと同様に可能であろう。

日本側：次回調査日程について、全体日程 5/24(土)～6/1(日)、寧夏での協議・調査は 5/26(月)～5/30(土)とし、予め、各CPの先生と連絡を取り合うこととした。

●個別調整：張小盟先生、李隴堂先生、劉学武先生3人。閻宏先生、宋乃平先生とは会えず。

①環境政策（張小盟先生）（調査日程 5/26-5/30 についても承諾）

- ・（環境家計簿について簡単な表形式のものを示して説明、200 程度の都市世帯・農家、3 か月間位。）
- ・これならば対象世帯への負担も少ないので調査は可能であろう。
- ・寧夏とくに農村のエネルギー利用の実態に合うよう項目を設定されたし。また農家では自家生産の作物廃棄物（藁、茎など）をエネルギー源として利用しているので、その場合も考える必要あり。
- ・調査対象地は 5 月訪問時にいくつか農村を回るので、そこから決定してはどうか。

②環境教育（李隴堂先生）（調査日程 5/26-5/30 についても承諾）

- ・アンケートの場所は、銀川市、靈武市、塩池県でこの順に経済発展の段階性がある。
- ・現地を視察してから詳しい研究場所を決定する。
- ・アンケート集計に関して理解しがたいところがあれば、メールで質問してほしい。
- ・メールでアンケート分析結果、研究方法、状況のやり取りを行おう。

③農村（劉学武先生）（調査日程 5/26-5/30 についても承諾）

- ・アンケート実施地をいくつか回って、詳細調査に最適な地域を検討する。
（アンケートの分析結果から見る村の性格付けはほぼ妥当で理解可能である。）
- ・アンケート実施地の概要、データ、地図を送るので研究資料にされたし。

⇒メールで詳細をやり取りすることとした。

以上の結果を踏まえ、各班では中国語で（大学院生・留学生等の協力を得ながら）CP と積極的に連絡をとることとする。

Ⅲ - 2 2013 年その他の交流記録

Ⅲ - 2 - 1 寧夏銀川連絡会の開催

今年度は 4 月 22 日、7 月 31 日の 2 回開催した。

4 月 22 日は、島根県、松江市、本学で異動による新しいメンバーがあったこともあり、顔合わせと、各機関の 2013 年度の寧夏関係の予定について情報交換した。

本学からは、5 月セミナーの開催準備状況と協力依頼を行った。5 月のセミナーで予定されている島根県関係者の報告、セミナーレセプションへの出席依頼などについて確認した。

松江市から、銀川市との職員相互研修についての情報提供と協力依頼があった。これを受けて 7 月 24 日に、職員研修の一環として、来日中の銀川市民政局の職員 1 名、人力資源和社会保障局職員 1 名が本学を訪れ、伊藤所長、一戸副所長、関副所長、学術国際部国際交流課藤原グループリーダーと情報交換を行った。来年度以降も同様の訪問が予定されている。

第二回目を 7 月 31 日に行った。島根県からは、10 月に迫った寧夏回族自治区との友好交流協定締結 20 周年事業について報告があり、セミナー開催との連携を確認した。

Ⅲ - 2 - 2 特定非営利活動法人 日本寧夏友好交流協会との関連事業等について

1. 2013年10月に寧夏大学卒業者7名が、本学の研究生に応募するにあたり、その内6名の身元保証人を日本寧夏友好交流協会会員の方々にお願ひし、引受けていただいた。
2. 2013年10月島根県及び寧夏回族自治区友好交流協定締結20周年、日本寧夏友好交流協会主催の植樹式、島根大学・寧夏大学国際共同研究所図書館開所式及び日中セミナーを同時期に銀川で開催し、相互事業において交流を行った。
3. 2014年3月8日に寧夏出身者との交流会が開催され、本学からは、昨年10月から研究生として在籍している学生のうち6名と、学術国際部国際交流課藤原グループリーダーが出席した。交流会では、出席した学生全員が、自己紹介、近況報告、将来の目標等日本語で挨拶・報告を行った。また、他の出席者からの質問にも日本語で回答していたこともあり、出席者からは、来日して5ヶ月とは思えないぐらい、日本語が上手との感想等もあった。その後、藤原グループリーダーから、日本寧夏友好交流協会の皆様に日頃より本学の国際交流にご尽力いただいているお礼と先ほどの学生たちの留学してからの様子等について、挨拶・報告があった。

Ⅲ - 2 - 3 寧夏大学への出張及び実務協議・内容について

1) 5月セミナーに際しての運営会議の開催

第10回セミナー開催と合わせて、運営会議を実施した。主に6月の協議日程の確認と今後の科研調査の受け入れに向けた調整を行った。

2) 6月の協議・打ち合わせ

2013年6月2-3日、寧夏大学において、謝副校長との協議、さらに運営会議を実施した。謝副校長との協議に際しての伊藤所長からの議題提案は以下のとおり。

1. 10月の島根県と寧夏回族自治区の交流イベント
2. 「日本サロン」の名称問題
3. 西部学術ネットワーク
4. 第2次基本合意書(来年3月まで)更新に向けた協議

協議結果は以下のとおり。

1. 第二次基本合意書の更新に向けて

所長同士で、実務レベルで内容を協議していくことを確認。

2. 共同研究・科研について

中国側の共同研究者・CPが日本で開催のセミナーに参加しないなどの問題があり、今後、報告義務を課すといった対応やそれを可能にする研究費配分などの工夫が

必要という共通認識に至った。

3. 「日本サロン」開設について

10月の時点で開催セレモニーを行っていくことについては双方合意。それまでに名称含めて協議・決定して、セレモニーにおいて知事や学長を招けるように対応していく。

3) 2013年10月23日の運営会議

2013年10月23日 16:30～ 研究所運営委員会

出席者：日中双方の所長・副所長＋郭先生＋田中研究員

議題は主に新規に設置した研究書図書館の運営設置に関する事項であり、運営方式や人員配置などについてできるだけ大学側に要請し、充実させていくということで認識が一致。

第三次基本合意書にも盛り込んで、できるだけ充実の方向に進めたい。

4) 2014年3月の伊藤所長訪寧における協議・運営会議

日程：

○中国側研究所との運営会議

2014/3/5 10:00-12:00 14:30-16:30 研究所3階会議室

2014/3/7 10:30-12:00 //

日本側：伊藤、田中、崔（通訳3/5のみ）

中国側：王、李、劉（3/5のみ）、蔵（通訳）、楊

○謝副校長との協議

2014/3/5 16:30-18:00 本部6階会議室

日本側：伊藤、田中

中国側：謝、周（国際交流处处长）王、李、劉、蔵（通訳）

・第三次基本合意書（最終文案確定。その後、両校で文案確認）

文案について双方確認、了承後の手続きは事務側で調整。島大学長、寧大校長のどちらかが先に署名して郵送で交換することとし、謝副校長との協議でも、報告し、了解を得た。

・運営会議規則

中国側より運営会議が組織という誤解を受けかねないため、規則やサインは不要との主張が出された。中国側に配慮し、規則内の組織受け取られかねない表現を変更して再度提案してもらうこととした。

・西部ネットワーク（西部学者共同研究強化ショウギ書）の文案確定

中国側からの文書案の提案を受けた。謝副校長より、今後セミナーに新たな大学からの参加があれば、ショウギ書の締結を呼びかけるとの意向表明があった。規模と呼びかけの具体的方法について、西部に15大学があるので、その半分程度の参加を目指す発言があった。

- ・図書館のその後（規則関係、今後の展開）

図書館規則関係（「議事録案」を10月に提示、継続審議中）

今後の大学上層部の理解を得る上でも、運営経費に関しては第三次枠組み合意書に盛り込むこととした。図書館の管理運営に関しては、中国側は、議事録として文書に残す点に消極的であったが、改めて中国側から文案を作成・提案することとした。

- ・第12回日中セミナー（島根大学で開催予定）の時期など

日程を10～11月に決定し、10周年イベントと併せて開催することとした。全体テーマは今後、主催者側決めていくこととした。

- ・研究所開設10周年関連イベント

謝副校長との協議

時期 2014年セミナーと合わせる 10月から11月

場所 日本、島根大学

参加 両学長（校長）、担当理事（副校長）、その他（島根県、市民NPOの方々）

イベント関連行事 記念式典のみ。出版に関しては時間的に間に合わない。

謝副校長：大学業務上の規制があるので、10/20～11/10が都合がよい。寧大国際交流処と島大国際交流課との調整で、貢献者、大学スタッフ（事務官）、一般の教授・学者の参加メンバーを決定する。大学上層部は出国から帰国まで5日間の制限があるので、日本に滞在するのは3日間のみ。イベント1日、セミナー1日、視察1日が望ましい。

▽出版関係（以下日本側提示メモ）

- ・編集委員会を組織（内部メンバー）
- ・日中別々に論文選択、査読、（論文は2007年以降（第一集以後）から選択）
- ・翻訳は著者の経費で行う
- ・論文の本数（日中各7、8本 延15、16章構成、320ページ程度の図書）
- ・論文の文字数、フォーマット（日本側で作成）
- ・スケジュール案

編集委員会を組織 2014.4

論文選定と査読 2014.6

著者へ修正依頼 2014.6～10

再査読（→再修正依頼） 2014.11（～2014.12）

翻訳 2015.1

出版原稿提出 2015.1～2

学振申請 2015.2～3

校正（2回）

2015年セミナー時出版出来（日本語と中国語）

Ⅲ - 3 資料・情報の提供

Ⅲ - 3 - 1 翻訳、資料収集と提供

- ・日本側研究者からの必要・要望に応じて翻訳を行った。

Ⅲ - 3 - 2 研究所メールマガジン『寧夏情報』

- ・寧夏情報（関係者向け）毎月 1、2 回（2013 年 4 月～2014 年 3 月末 11 回発信）

Ⅲ - 3 - 3 『研究所ニューズレター』

- ・研究所の活動状況、寧夏に関する情報、関連論文等を掲載、第 11 号 2014 年 2 月発行

Ⅲ - 4 島根大学・寧夏大学国際共同研究所図書館の開設について

島根大学と寧夏大学の学術交流強化と、日本の文化と風俗について広く寧夏の人々に知ってもらうため、日中学術図書及び日本の図書、雑誌等を閲覧できる場所として、島根大学・寧夏大学国際共同研究所図書館の開設を企画した。島根大学主体で寧夏大学と共同し 2011 年よりその準備を進めてきた。図書館機能の他に、島根県と松江市等の観光情報の提供、留学説明会等のイベント開催、島根大学に留学を希望する寧夏大学生への資料提供等を開設目的とした。

本図書館開設の趣旨に賛同した、小林祥泰島根大学長をはじめ多数の島根大学教職員、島根大学附属図書館、しまね国際センター、出雲市図書館、NPO 日本寧夏友好交流協会から計 2,688 冊の図書が寄贈された。島根大学学術国際部国際交流課職員と共同研究所日本側研究所員により、寄贈された書籍の選別と登録、寧夏大学への発送作業が行われ、計 2,463 冊の日本語書籍を国際郵便で寧夏大学へ輸送した。

2013 年 10 月 21 日、寧夏大学（銀川市）において島根大学・寧夏大学国際共同研究所図書館の開館式が行われた。

Ⅲ - 5 冠付奨学金制度の運用

島根大学では 2013 年度に（株）日新より「日新 アジア留学生奨学金」の支援を受けて、2013 年寧夏大学卒業者で、島根大学大学院修士課程に入学する者 2 名（1 名につき 250,000 円／年間×2 年間）に対して奨学金を支給することとした。

現在、奨学金支給対象候補者 2 名は、生物資源科学部の研究生として在籍している。今後希望する大学院修士課程の入学試験私費外国人留学生入試を受験・合格し、入学した場合に奨学金を支給するものである。

Ⅲ - 6 JICA 事後評価対応

2014年1月27日にJICAの事業事後評価のため、OPMAC株式会社海外事業部 村山なほみ次長が島根大学に来訪され、所長、両副所長、国際交流課藤原グループリーダー、松尾課員が対応した。JICAの事業として終了した後も継続的に交流し、研究と人材育成を展開している事例として評価いただいた（医学部と寧夏医科大学の事後評価は1月28日に行われた）。

Ⅲ - 7 その他活動等

Ⅲ - 7 - 1 日本への留学支援

- 寧夏大学外国語学院日本語学科への支援（神田研究員、田中研究員）
 - ・講義の担当
 - ・日本語コーナー等イベントへの参加
- 日本留学希望者に対する相談対応と派遣支援
 - ・留学説明会の開催
 - ・相談対応（留学に関する説明、パンフレットの配付等）

Ⅲ - 7 - 2 マスコミ等広報

- ・「中国の研究者ら知事を表敬訪問 寧夏大の一行」、2013年5月14日、中国新聞
- ・「島根大に日新の奨学金制度創設 中国・寧夏大から2人来学」、2013年10月4日、島根日日新聞
- ・「企業奨学金で留学生 島根大中国から受け入れへ」、2013年10月4日、中国新聞
- ・「寧夏大（中国）卒業生 島大が受け入れ 日本の企業 実地で勉強」、2013年10月9日、山陰中央新報
- ・「企業奨学金を受給 留学生2人受け入れ 島大で初」、2013年10月19日、読売新聞
- ・「島根県と寧夏回族自治区 交流20年の節目祝う」、2013年10月22日、山陰中央新報
- ・「日本島根大学松本一郎教授訪問我院做《农村建设与环境教育》的精彩报告（島根大学の松本一郎教授が教育学院にて「農村建設と環境教育」のテーマですばらしい報告を行った）」、2013年10月24日、宁夏大学教育学院（寧夏大学教育学院ニュース）

IV 研究所の組織

○H25年度の運営体制

役職	日本側	中国側
顧問	保母武彦 (島根大学名誉教授)	陳育寧 (前寧夏大学長)
所長	伊藤勝久 (島根大学生物資源科学部教授)	王鋒 (寧夏大学教授)
副所長	一戸俊義 (島根大学生物資源科学部教授)	李紅 (寧夏大学行政管理人員)
	関耕平 (島根大学法文学部准教授)	劉曄 (寧夏大学副研究館員)
研究員	神田嘉文(平成25年3月1日~7月20日) 田中奈緒美 (平成25年7月21日~平成26年3月31日)	蔵志勇 (寧夏大学助理研究員)
		李楊 (行政担当)

○客員研究員名簿

氏名	所属	研究分野
鄭蔚	中国 南開大学日本研究院	農業経済学、金融学
周建中	日本 東京成徳大学人文学部	生物環境科学、民族歴史文化、人口と教育問題
高橋健太郎	日本 駒沢大学文学部地理学科	人文地理学
胡霞	中国 中国人民大学经济学院	発展経済学、農業経済学
富野暉一郎	日本 龍谷大学法学部	市民自治、調和型連動社会、地域環境政策
胡勇	中国 北京農学院人文社会科学部	社会学、社会福祉学
張偉	中国 北京工商大学经济学院	ミクロ金融、発展金融、中小企業融資、東アジア金融協力
大西広	日本 慶應義塾大学経済学部	統計学、経済システム論、中国経済数量分析
氏川恵次	日本 横浜国立大学大学院 国際社会科学研究科	経済政策・環境経済
谷口憲治	島根大学名誉教授	農業経済
劉海濤	島根大学	農村金融

V 資料その他

V-1 新聞記事

■毎日新聞社 平成25年5月12日(日)掲載記事

地域研究の成果発表

日中国際学術セミナー

島根大

国内の大学で唯一、研究に取り組む。04年中国内陸部に研究拠点を持つ島根大と中国・寧夏大などが共催する日中国際学術セミナーが11日、松江市西川津町の島根大松江キャンパスであった。

当初は昨年9月の予定だったが、尖閣諸島を巡る日中両国の問題などが影響し、延期となっていた。今回は日中国の研究者ら約50人が参加。持続可能な社会の実現や環境などをテーマに成果を発表した。

両大学は長年共同で農業や環境などの地域

研究に取り組む。04年には中国・寧夏回族自治区銀川市に「島根大・寧夏大国際共同研究所」を設置し、日中国の研究者が現地でフィールドワークなどを精力的に行っている。

基調講演では、島根大の松本一郎准教授が環境教育に関する取組の紹介から、現状と課題について言及。同研究所で中国側の所長を務める寧夏大の王鋒教授が現地の農村人口の流出をテーマにした研究を紹介した。

【曾根田和久】

■山陰中央新報社 平成25年5月12日(日)掲載記事

日中の研究者40人集う

島根大 環境問題などセミナー

松江



環境問題について事例報告する日本の研究者—松江市西川津町、島根大

農村、環境問題に詳しい日中の研究者40人が集う「日中国際セミナー」が11日、松江市西川津町の島根大松江キャンパスで始まり、夏回族自治州の寧夏大初日は中国の農村の課題や環境問題について基調講演と事例報告が行われた。12日まで、島根大と、島根県と友好提携する中国・寧夏回族自治区の寧夏大などが開いた。

基調講演では、島根大教育学部の松本一郎准教授が「地域や学校現場における環境教育」と題して講演。「立場や状況にかかわらず、自然環境に対し、正しい判断と行動ができる能力が必要」と述べ、次世代の子どもたちに対する環境教育が必要だと指摘した。

中国側からは、寧夏大・島根大国際共同研究所の王鋒所長が環境し、寧夏の人口の動きについて解説した。

事例報告は、日中の民間交流や農村の環境維持などをテーマにした分科会で行われた。12日も分科会を開き、15日には中国側の代表が山口副兵衛知事らを表敬訪問する。

前回のセミナーは、中絶県・尖閣諸島をめぐる、日中関係が悪化している昨年9月に予定されたが、寧夏大の不参加表明を受けて開催が見送られた。



島根寧夏の交流の現在

島根の中核、シル小瀬川や用水の水質改善プロジェクトの進展が、水質改善の推進に力を与えている。20年前、県と寧夏回族自治区が友好関係を結んだ。水質改善に力を入れている。20年前、県と寧夏回族自治区が友好関係を結んだ。水質改善に力を入れている。

環境分野で大きな成果

島根と寧夏の交流は、環境分野で大きな成果を挙げている。水質改善プロジェクトの進展が、水質改善の推進に力を与えている。20年前、県と寧夏回族自治区が友好関係を結んだ。水質改善に力を入れている。

実績

島根と寧夏の交流は、環境分野で大きな成果を挙げている。水質改善プロジェクトの進展が、水質改善の推進に力を与えている。20年前、県と寧夏回族自治区が友好関係を結んだ。水質改善に力を入れている。

島根

互いに理解し信頼構築

島根と寧夏の交流は、互いに理解し信頼構築を進めている。水質改善プロジェクトの進展が、水質改善の推進に力を与えている。20年前、県と寧夏回族自治区が友好関係を結んだ。水質改善に力を入れている。

課題

島根と寧夏の交流は、互いに理解し信頼構築を進めている。水質改善プロジェクトの進展が、水質改善の推進に力を与えている。20年前、県と寧夏回族自治区が友好関係を結んだ。水質改善に力を入れている。

V-2 国際共同研究所ホームページ・トピックス

島根大学・寧夏大学国際共同研究所

トピックス トップページへ戻る	<div style="text-align: center;">一覧</div> <hr/> <p>2014.02.08 島根大学にて田中研究員の職員表彰が行われました</p> <hr/> <div style="text-align: center;">2013</div> <p>2013.11.11 第11回 日中学術国際セミナーが開催されました 2013.11.11 島根大学・寧夏大学国際共同研究所図書館の開館式 2013.11.11 島根大学教育学部松本一郎准教授が寧夏大学教育学院で講演 2013.09.17 田中研究員の寄稿文が掲載された書籍が出版されました 2013.08.28 2013年 寧夏大学中日国際学術セミナー開催のお知らせ 2013.06.26 JSTサイエンスポータルチャイナに寧夏大学との共同研究についての記事が掲載されました 2013.05.20 第10回 日中学術国際セミナーが開催されました 2013.04.25 2013 日中国際セミナー(第10回)プログラムについて 2013.04.12 国際共同研究所の年報 第6号を発刊しました 2013.01.23 2013 日中国際セミナー(第10回)開催のご案内 2013.01.11 田中泰緒美研究員が「六盘山友誼賞」を受賞 2013.01.11 島根大学留学説明会が開催されました</p> <hr/>
---	--

※詳細については、島根大学・寧夏大学国際共同研究所のホームページをご覧ください。
<http://www.ningxia.shimane-u.ac.jp/topix.html>

国際共同研究所の年報 第6号を発刊しました

この度、島根大学・寧夏大学国際共同研究所年報の第6号(2012年度版)が2013年3月末に発刊されました。



第6号(2012年度版)
クリックするとPDFが開きます

ご用命の際は島根大学学術国際部国際交流課までお問い合わせください。
TEL:0852-32-9735/FAX:0852-32-6481
Email:kks-kouryu@jn.shimane-u.ac.jp
※メールアドレスは迷惑メール防止のため、画像ファイルで掲載しています。

過去の年報については「[年報一覧](#)」ページをご覧ください。

2013 日中国際セミナー(第10回)プログラムについて

2013年5月11日(土)～2013年5月12日(日)の2日間島根大学で開催される2013日中国際セミナー(第10回)のプログラムについてお知らせいたします。

【開催期間】 2013年5月11日(土)～2013年5月12日(日)(2日間)

【開催場所】 島根大学

【テーマ】 「日中農村における持続可能な社会構築と環境教育」

5月11日(土)	<p>9:00 開会 小林祥泰 島根大学長 挨拶 寧夏大学代表者 挨拶 西宮宣昭 JICA中国国際センター所長 挨拶</p> <p>9:50 基調講演 日本側：松本一郎 島根大学教育学部准教授 中国側：王鋒 寧夏大・島根大国際共同研究所所長 高島亜紗 JICA中国事務所調査役</p> <p>13:30 分科会 1, 2 分科会1：生物資源科学部教授会場，報告数10 分科会2：生物資源科学部1号館101講義室，報告数10</p>
5月12日(日)	<p>9:00 分科会 1, 2 分科会1：生物資源科学部教授会場，報告数12 分科会2：生物資源科学部1号館101講義室，報告数13</p> <p>17:00 総括討論と講評</p>

◆発表者の方へ ※重要

発表予定の方で、まだ発表用のパワーポイントを提出しておられない方は、至急、島根大学生物資源科学部 一戸(プログラム編集担当)までデータを送付いただきますようお願いいたします。

アドレス：toshi@life.shimane-u.ac.jp *アドレスの@は半角に直してください。

* プログラムの詳細はこちらから(2013年5月8日更新) ↓



[2013年 日中国際セミナープログラム](#)

* CALL FOR PAPERS ⇒ [日本語](#) ・ [中国語](#)

第10回 日中学術国際セミナーが開催されました

2013年5月11日(土)、12日(日)の2日間かけ、「日中農村における持続可能な社会構築と環境教育」を全体テーマとして、島根大学生物資源科学部 号館において第10回 日中国際学術セミナーが開催されました。今回のセミナーは従前と異なり、独立行政法人 国際協力機構(JICA)の支援を受け、中国西部地域を研究対象としている中国人研究者を17名研修派遣いただきました。国際共同研究所が現在推進している「中国西部学術ネットワーク」の設立理念と既往の活動がJICAに高く評価されたのが支援理由です。

セミナー初日は、小林祥泰 島根大学長、王鋒 寧夏大学代表、西宮宣昭 JICA中国国際センター所長より挨拶があり、松本一郎 准教授(島根大学教育学部)、王鋒 教授(寧夏大・島根大国際共同研究所所長)、高島亜紗 調査役(JICA中国事務所)からそれぞれ、「地域や学校現場における環境教育－現状と課題・私たちの目指すもの－」、「寧夏の農村流動人口による経済社会発展への影響及びその対策に関する研究」、「中国中西部におけるJICAの日中協力」と題する基調講演が行われました。

分科会においては、日中協力事業、中国の農業環境保護政策、環境教育、ソーシャルキャピタル、中国農村の人口移動、中国農村経済、中国の年金保険、乾燥地環境、自然エネルギー利用、農業、音楽と農業に関する計42題の口頭発表が行われました。

セミナー終了後、活発な総括討論に引き続き、島根大・寧夏大国際共同研究所所長 伊藤勝久教授より本セミナーの総括、第11回の日中国際学術セミナー(寧夏大)に向けた課題整理および「中国西部学術ネットワーク」の参加呼びかけが行われました。

このネットワークは、共同研究所がハブになり、中国西部の研究を行う幅広い研究者のネットワークを形成し、当該地域の研究を多分野の研究者が参加することで飛躍的に高めることを目的としたものです。参加者の多くはこれに賛同し、秋に予定されているセミナーの際の調印を目指すことにしました。

セミナー終了後、島根大学主催のパーティーが東急インにて開催されました。島根県、松江市からの出席者を迎え、寧夏大学寧夏大学音楽学院の劉明教授と島根大学教員、学生による演奏会が余興として披露され、セミナー参加者が相互交流を深めました。



2013年度 日中学術国際セミナースケジュール

※本セミナーについて、JICA中国事務所のホームページに記事が掲載されておりますのでぜひご覧ください。

URL <http://www.jica.go.jp/china/office/others/newsletter/201306/02.html#a04>

JSTサイエンスポータルチャイナに寧夏大学との共同研究についての 記事が掲載されました

この度、独立行政法人科学技術振興機構(JST)の「Science Portal China(サイエンスポータルチャイナ)」というウェブサイトにて島根大学と寧夏大学との共同研究に関する記事が掲載されました。

サイエンスポータルチャイナは中国の新しい科学技術の流れや方向性を知ることができるサイトで、中国における日々の科学技術に関するニュースや最新の研究成果、研究者のレポートが随時公開されています。

この度掲載された記事は、JSTからの依頼により、島根大学・寧夏大学国際共同研究所の保母武彦顧問、伊藤勝久所長が記事を執筆されたもので、島根大学と寧夏大学との二大学間の研究交流の歴史から西部学術ネットワークへの発展についての内容となっております。

皆様、是非ご覧くださいませ。

・第一回 2013年5月30日掲載

『日中の教育最前線 島根大学と寧夏大学の共同研究について(1)』伊藤勝久所長

・第二回 2013年6月24日掲載

『日中の教育最前線 島根大学と寧夏大学の共同研究について(2)』保母武彦顧問



JSTサイエンスポータルチャイナ サイト

2013年 寧夏大学中日国際学術セミナー開催のお知らせ

国際間の教学、科学研究分野の学術交流と協力関係を深め、寧夏大学と島根大学、及び中国西部地域における大学間の学術研究レベルを高めるため、寧夏大学の主催により、「第11回中日国際学術セミナー」を行います。

- 主 催： 寧夏大学
共 催： 島根大学など
実施部門： 寧夏大学・島根大学国際共同研究所
主 会 場： 寧夏大学A区行政ビル（主楼）6階会議室
会場住所： 寧夏・銀川市西夏区賀蘭山西路489号 寧夏大学A区
全体テーマ： 中日両国における国際化を視野にいたした農村社会自然経済の持続可能な発展
開催日時： 2013年10月22日（火）—23日（水）
参加要領： 参加者について特に限定はありません。会議の全体テーマに沿った最新研究成果をご提出ください（論文発表、研究報告、プロジェクト報告。未発表のものであること）。

各提出締切について

1、発表要旨提出締切：2013年9月10日

※ 字数は500字前後で、タイトル・氏名・所属・職務・連絡先を明記、中国語の訳文を添付のこと。

2、発表用PowerPoint提出締切：2013年9月15日

3、フルペーパー提出締切：2013年12月20日

提出方法について

電子メールで下記アドレスまでお送りください。（タイトルに「セミナー発表論文」と明記してください。）

e-mail: tyudzzy6@yahoo.co.jp（担当：藏）

ご質問等連絡先： 藏 志勇 0086-187 9518 0163

食事・宿泊について

会議開催期間の参加者の旅費及び宿泊費は自己負担となります。（宿泊手配も承りますので、藏までご連絡ください。）

田中研究員の寄稿文が掲載された書籍が出版されました

2013年8月に、出版された『在中日本人108人のそれでも私たちが中国に住む理由(出版:阪急コミュニケーションズ)』に島根大学・寧夏大学国際共同研究所の田中奈緒美研究員が『銀川に生まれた我が子に思う』というタイトルで、銀川での仕事の様子や家族との生活、反日を機に感じたこと等を綴った文章を寄稿されています。

本書籍は2013年8月末の発売直後に増版が決定するほど、世間の注目を集めています。マスコミ等の報道だけでは知ることのできない、中国在住日本人の目線という角度で見た中国を知ることができる1冊です。皆様ぜひご一読されてはいかがでしょうか。



【内容】

2012年9月の反日デモ激化から1年——。今も現地に住み続ける日本人たちが語った、中国の現実、中国人の本音、そして日中関係の行方。戦後最悪ともいわれる日中関係のなか、彼らはいったいどんなふうに関中を見てきたか。駐在員からブロガー、建築家、NGO代表、研究者、日本語教師、俳優、起業家、寿司職人、医師、主婦、高校生まで。マスメディアの報道だけでは知ることのできない、108人の中国在住日本人の証言。(阪急コミュニケーションズHPより)

【出版】阪急コミュニケーションズ・2013年8月29日発行

【価格】1,890円(税込)

島根大学教育学部松本一郎准教授が寧夏大学教育学院で講演

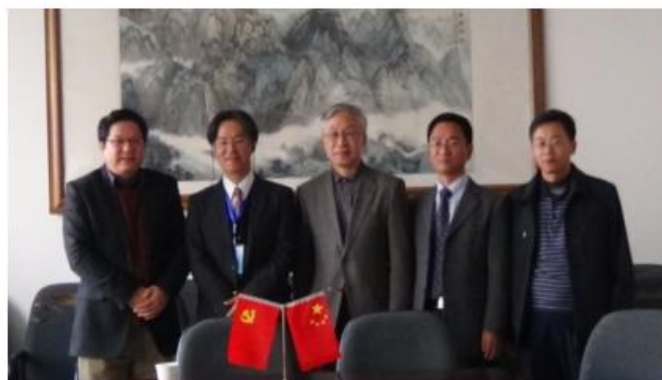
島根大学教育学部松本一郎准教授が10月23日に寧夏大学教育学院で『農村建設と環境教育』についての講演を行いました。



この度の講演は、10月21日～22日に中国・寧夏大学で開催された日中国際学術セミナーに松本准教授が参加されるのに合わせて寧夏大学教育学院の戴联荣院長が依頼され、急遽実現したものです。

会場には寧夏大学教育学院の教授、博士課程の学生、修士課程の学生、「2013国培プロジェクト」に係る中小学校長など多くの方が集まり、松本准教授の斬新で素晴らしい講演に耳を傾けていました。また、講演後の質疑応答では、参加した学生や教員から積極的に質問が上がり、大変活発な意見交換が行われました。

松本准教授の講演内容については寧夏大学教育学院のホームページでも紹介されており、今回の講演を依頼した寧夏大学の戴学院長は、「過密な滞在スケジュールにもかかわらず早く講演を引き受けて頂き大変感謝しています。今後も両校間の更なる交流と協力体制の強化を期待しています」とコメントを寄せておられました。



島根大学・寧夏大学国際共同研究所図書館の開館式

2013年10月21日、寧夏大学(銀川市)において島根大学・寧夏大学国際共同研究所図書館の開館式が行われました。この研究所図書館は、日本の文化と風俗を寧夏の人々に知ってもらうため、日本語の書籍、雑誌等を閲覧できる場所として開設されました。図書館開設の趣旨に賛同した小林祥泰学長をはじめ多くの島根大学教職員、島根大学附属図書館、NPO日本寧夏友好交流協会から2,463冊の日本語書籍が寄贈されました。



開館式では、小林祥泰 島根大学長から何建国 寧夏大学校長へ寄贈図書目録が手渡され、図書館に掲示する看板の除幕式が行われました。小林学長は、「この図書館が多くのの人に利用され、島根大学への留学を希望する学生が増えることを期待したい」とスピーチをされました。開館式の後、島根大学関係者と、寧夏交流20周年記念式典のために銀川市を訪れた島根県訪問団、NPO日本寧夏友好交流協会訪問団が図書館を見学しました。図書館が担う役割に対して多くの関係者からの期待がよせられ、共同研究所中国側所長の王鋒教授は「図書館の開架と貸出のためには、まだ事務手続き等が残されているが、島根大学と連携して早期に図書館が利用できるように努力する」と語られました。



島根大学 小林学長による目録の授与



図書館内の様子

第11回 日中学術国際セミナーが開催されました



2013年10月21日～23日の日程で、第11回日中学術国際セミナーが寧夏大学で実施された。島根大学からは小林学長、竹内理事、安藤国際交流センター長、小村学術国際部長をはじめ、生物資源科学部、法文学部、教育学部の教員・大学院生10名が参加した。今回のセミナーは、島根県と寧夏回族自治区の友好交流締結20周年の一連の行事と日程を合わせて行われたため、島根県副知事を団長とする島根県の関係者、またNPO法人日本寧夏友好交流協会のメンバーなど市民の友好交流団もセミナー開会式、共同研究所図書館の開所式、及び同図書館の見学に参加した。

開会式では、小林島根大学長、何寧夏大学校長が両校の友好と学術の発展のために本セミナーが大きな役割を果たしていると挨拶し、両校の友好提携を確認した。

開会式では、小林学長が特別講演として、島根大学概要の説明と各学部で行われている特徴的研究をアピールし参加者の関心を集めた。次いで、基調講演が行われ、寧夏大学経済管理学院高桂英教授は「中国内陸地域における気候変動への対応経験」と題し、寧夏で実施されてきた生態移民プロジェクトの意義について報告した。また島根大学法文学部関耕平准教授は「TPP参加と日本の農村」というテーマで、現下の課題であるTPP参加について農村の受ける影響と都市へのその影響の波及の問題を指摘し、豊かな農村のあり方として「むらの時間でときを刻む」ことの重要性を訴えた。

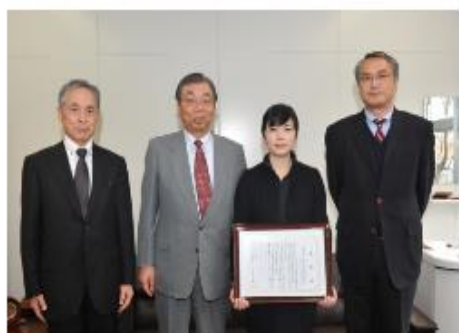
島根大学にて田中研究員の職員表彰が行われました

平成26年2月16日、島根大学において島根大学・寧夏大学国際共同研究所の田中奈緒美研究員の職員表彰式が行われました。

この度の表彰は2012年12月21日に中国寧夏回族自治区より教育分野では日本人初となる「六盘山(六盤山)友誼賞」を受賞したこと、研究所での業務の傍ら、寧夏大学で日本語講師を務め、中国人学生及び教職員に日本語並びに日本文化教育を行うことを通じて日本についての正しい理解を広めていること等が評価されたものです。

表彰式後は、田中研究員による研究発表が行われました。「寧夏大学生の海外留学ニーズについて」という題目で行われた発表では、寧夏大学生の留学に対するニーズ調査の結果を基に、海外留学への関心度やその障害について分かりやすく説明されました。

島根大学はアジアをはじめとする諸外国との交流の促進を大学憲章に掲げ、海外からの研究者数や留学生数の増加に積極的に取り組んでいるため、今回の田中研究員の発表は大変興味深く有益なもので、小林祥泰島根大学長をはじめとする参加者からは研究内容や寧夏大学についての熱心な質問が多く寄せられていました。



職員表彰



懇談の様子

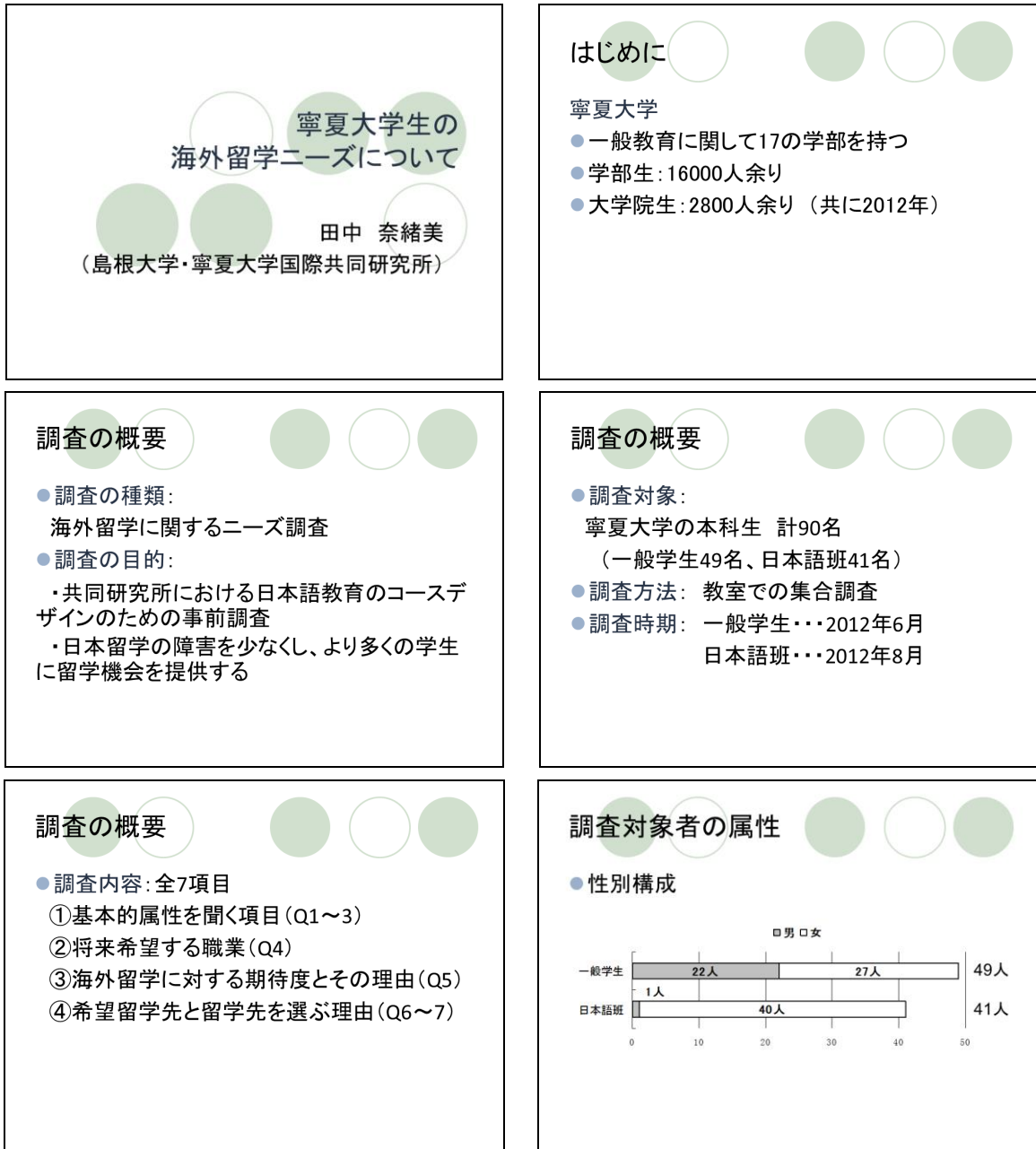


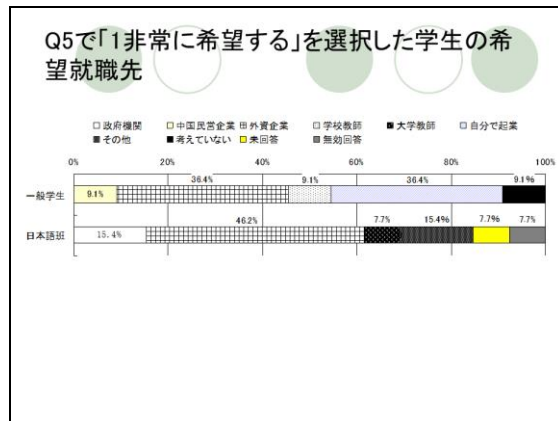
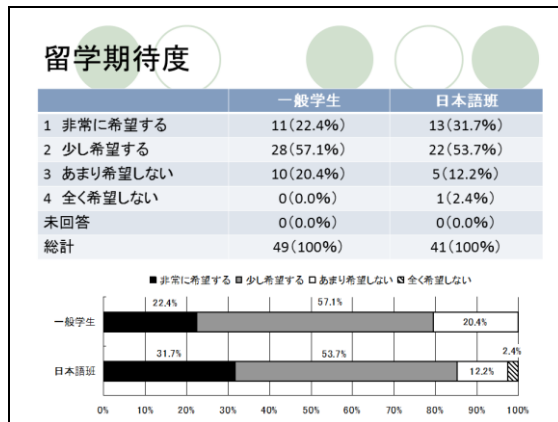
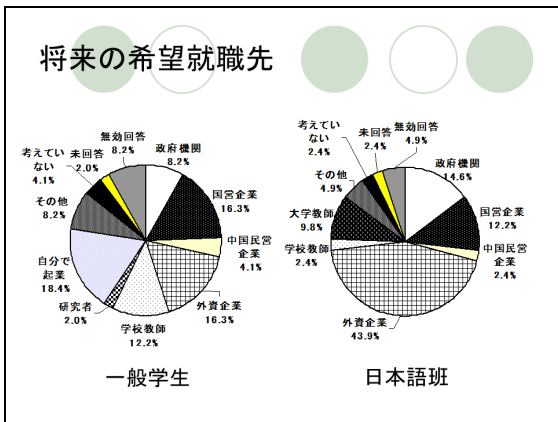
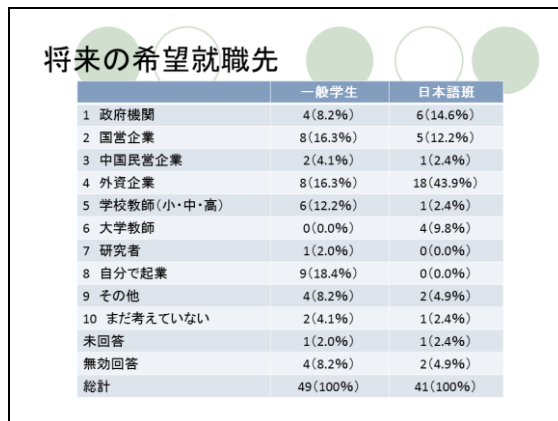
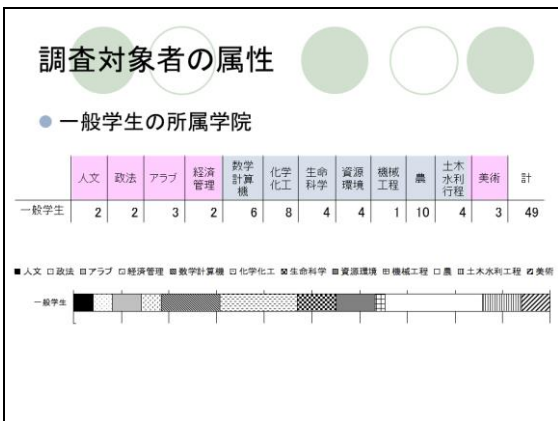
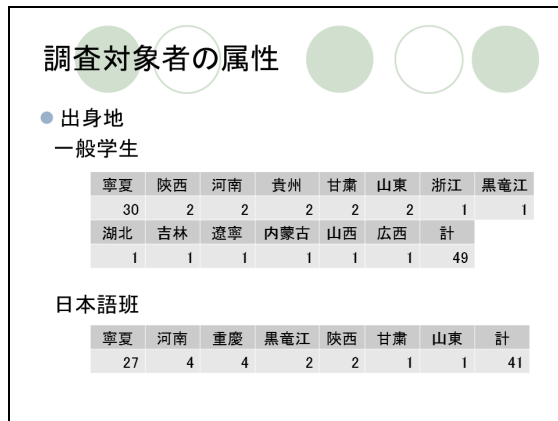
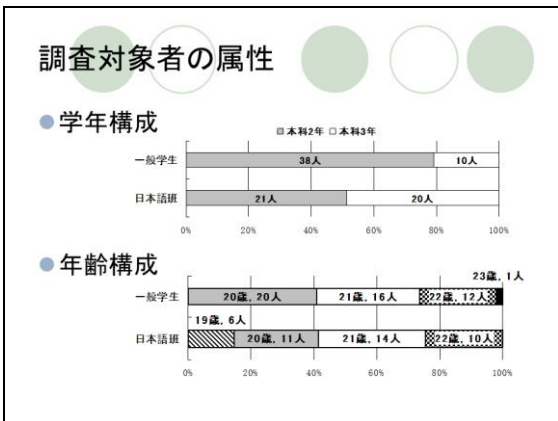
研究発表の様子

V-3 田中研究員による留学生ニーズに関するプレゼン資料

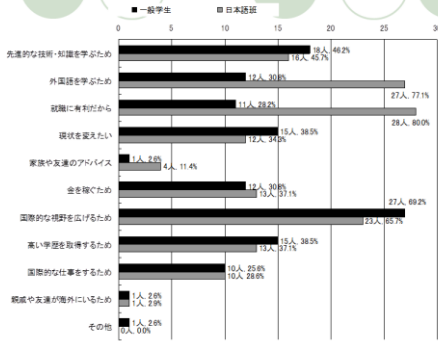
第11回セミナーで田中研究員が報告した日本への留学生増加実現に向けた調査結果に関するプレゼン資料を以下に掲載する。1月に行われた田中研究員への職員表彰の式典のあと、学長はじめ担当理事に対しても報告し、今後の留学生獲得活動について意見交換も行われた。

◆プレゼン資料





留学を希望する理由

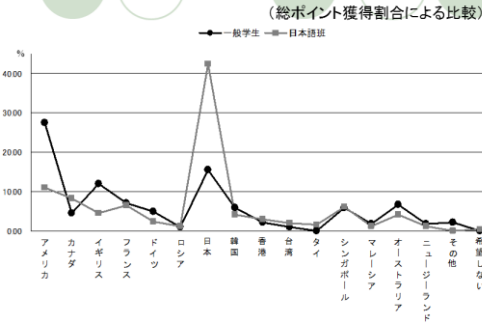


留学を希望しない理由

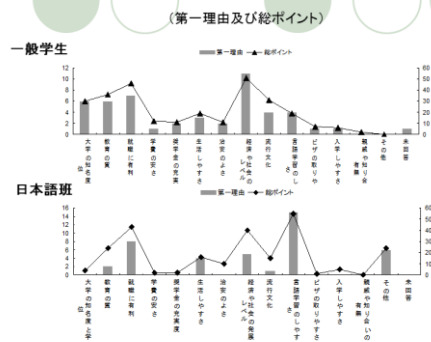
- 一般学生「3 あまり希望しない」10名(うち理由未回答2名)
- 学費の問題
 - 経済的な基礎がない。また、自分の能力も足りないと思う。
 - 新しい環境に慣れるのが難しい。
 - 民族的に制限的要素があり、新しい場所に馴染めない。
 - 家から遠い。
 - 経費が高い。また、知らない場所へは行きたくない。
 - 資金と言語の問題。
 - 学習の成績に対する要求が高いし、経済的プレッシャーも大きい。

- 日本語班「3 あまり希望しない」5名、「4 全く希望しない」1名
- 留学費用が高すぎる。また、両親から離れたくない。
 - 金銭的な問題。また、あまり興味もない。
 - 学費が高いので、家庭条件に合わない。
 - 海外で1人で生活するのはつらい。また、早く経済的に自立したいと思っている。
 - 経済的に難しいし、将来外地で働くつもりはないので、留学しようと思いと関係ない。
 - 家庭条件もよくないし、外地に行くのは好きではない。

一般学生と日本語班の学生の希望留学先



希望留学先選択理由グラフ



V-4 ニュースレター

※詳細は島根大学・寧夏大学国際共同研究所ホームページをご覧ください。

<http://www.ningxia.shimane-u.ac.jp/framepage6.html>



島根大学・寧夏大学国際共同研究所日本側事務局 2014年2月 発行

寧夏研究所をハブとする西部学術ネットワークの形成へ

寧夏研究所の今後の展開方向は大きく拡がりつつある。研究所は研究を通じた人材育成と地域貢献をその任務としているが、対象地域を地元の寧夏回族自治区だけに限らず、同様の問題を抱える中国西部に展開しようとしている。もともと2009年、島根大学と寧夏大学は、「研究所を拠点とする中国西部地域研究の学術ネットワーク」の構築を約束した（国際共同研究所第2次基本合意書(2009)）。その後、内蒙古師範大学歴史文化学院、西南大学歴史文化学院、蘭州大学歴史文化学院、蘭州大学西北少数民族研究中心が、本学術ネットワークに参加した。そして2013年10月段階で「西部研究学者協力を強化するためのショウ（人偏に昌）儀書」が両大学で承認され、今まで本ネットワーク形成の準備段階であった状況が大きく動き出した（なお島根大学側では「西部学術ネットワーク」と呼び習わしており、寧夏大学側では組織体をイメージする名称を避けて「加強西部研究学者協力」となっているが、実質的には同じである）。

この背景には2013年5月島根大学で開催された第10回日中学術セミナーで、JICAの支援により中国西部各地の大学・研究所から研究者が集まり熱心な討議がなされたことによる。JICAは寧夏研究所を中心にした西部学術ネットワーク形成という動きに高い評価を与えており、ネットワーク成立の促進のために、中国西部各地から研究者を招聘したものである。松江に集まった研究者の所属は、列举すれば、寧夏大学の他、寧夏農業総合開発弁公室、寧夏農林科学院（寧夏自治区）、内蒙古師範大学、内蒙古大学、内蒙古農業大学（内蒙古自治区）、蘭州大学、蘭州交通大学（甘肅省）、西北農林科技大学、西安建築科技大学、西北大学（陝西省）、青海大学、青海師範大学（青海省）、中国農業大学、中国農業科学院（北京市）、西南大学（重慶市）、南京理工大学（江蘇省）である。

2000年に始まる「西部大開發政策」により、西部地域の省都や地方中核都市では急速な經濟發展が見られるが、周辺農村では農業産業化による環境負荷増大や人口減など急速な変化に十分対応できていない。周辺農村の社會經濟發展と環境保全を両立させ、持続可能な農村地域を形成することが重要である。そのために必要な知見や技術を相互に持ち寄りプロジェクト方式で日中学術協力をを行い、その成果を地域に還元しようとするものである。

研究分野としては従来からの農村の社會發展、持続可能な農畜産技術などに加え、農村文化・伝統の維持保全、宗教と民族特性、学校や社会での環境教育手法など持続可能な社會構築に関連する島根大学が協力可能なあらゆる分野が想定されている。

寧夏研究所はそのハブとして、各プロジェクト研究を調整と事務的に支援するという新たな役割を持ち、より広い地域を対象としようとしている。今後とも新たな研究プロジェクトの立ち上げと推進について、島根大学研究者各位のご協力をお願いしたい。

2014年2月 島根大学・寧夏大学国際共同研究所 所長 伊藤勝久

第11号 目次

巻頭言「寧夏研究所をハブとする西部学術ネットワークの形成へ」	1	寧夏回族自治区の紹介	4
トピックス	2	第五回 固原市	
・ 第10回・第11回共同研究所セミナーを開催		寄稿	
・ 共同研究所図書館が開館		「人とともに地球とともに-環境教育の重要性-」	
・ 寧夏で科研調査を実施		松本一郎（島根大学教育学部）	5
・ 共同研究所年報 第6号を発行		論文紹介	6
ニュース	3	「黄土丘陵区における退耕灌木林の炭素固定様相」	
・ 島根大学が寧夏大学卒業生向けの奨学金制度を開始		劉濤（西北農林科技大学）他	
・ 島根県と寧夏回族自治区が交流20周年		お知らせ	11
		新着図書紹介	

島根大学と寧夏大学の共同研究について（1）

2013年5月30日掲載

http://www.spc.jst.go.jp/experiences/education/education_1303.html

伊藤勝久：島根大学教授、島根大学・寧夏大学国際共同研究所日本側所長

略歴：1956年生。京都大学農学部卒、同修了。1983年島根大学に赴任。1985年京都大学農学博士。助手、講師、助教授を経て2002年より現職。専門は林政学、林業経済学、山村問題。

昨年の尖閣問題によって延期されていた日中国際学術セミナー（セミナー日程5/11～12、視察等日程5/13～15）が先週終了した。このセミナーは今回で10回目を数え、その規模も徐々に大きくなりつつある。セミナーは毎回特定の大きなテーマのもとに、それに関連する報告が行われる。当初は島根大学と寧夏大学の一部の有志で始まったセミナーで、両大学及び共同研究のメンバーになっている他大学の研究者がその参加メンバーであったが、今回は中国中西部各地の大学・研究所からもJICAの招聘支援により多くの参加があり、中国側ゲストだけで30名余りになった。また日本国内から島大以外にもいくつかの大学からの参加があった。また報告分野も社会科学、自然科学、人文科学さらには民族音楽に至るまで多岐にわたるものであった。このセミナーの対象分野、参加者数、参加大学の拡大は、共同研究の規模と範囲の拡大を反映しているものといえる。

島根大学と寧夏大学の研究交流の発端は1987年に遡る。この契機は1986年に中国からの大学院留学生を島根大学に迎え、翌年その院生の修論調査のために担当教員が訪中し、寧夏に入ったことに始まる。当初は寧夏社会科学院がそのカウンターパートで当該院生、訪中教員と寧夏社会科学院の研究者が、現地調査活動を共同で初めて実施した。（島根大学側は北川教授（後に島根大学長）、井口助教授（後に研究所日本側所長）、胡院生（現、人民大学教授）、寧夏社会科学院は、馬院長、陳副院長（後に寧夏大学書記・校長）、高研究員（後に研究所中国側所長）などである。）当時の寧夏回族自治区、とくに南部山区は外国人に開放されたばかりで、訪中教員が初めて外国人研究者として入ったという。この頃は沿海部で始まった経済開放がまだ内陸部には影響せず、寧夏の農村部にはきわめて多くの人口が存在していたため、当初の共同研究のテーマはこうした「低開発農村」の開発方法であった。1989年度から2年間の科研（代表、北川）により日本の経験を参考にしながら農村部の開発方法について寧夏社会科学院の研究者と共同研究が実施された。主として社会科学面から農家調査をもとにした実践的研究で、農外就業の受け皿として地域の特色を生かして郷鎮企業の振興が示唆され、また林業面でも当時蔓延していたポプラの「天牛病（カミキリムシ被害）」の対策と黄土の植生回復の植林の改善方法についても検討された。

さらに寧夏では過酷な自然環境のもとで牧畜、とくに羊の放牧が盛んであったので、畜産分野からもこの共同研究に参加し羊の栄養分析が行われ、世界で初めての寧夏の羊の血液分析結果が報告された。これは1990年の環日本海シンポ（島根大学主催）でその成果が報告され、一連の成果は『中国・黄土高原地域開発研究論文集』（地域開発政策日中国際共同研究グループ、1995年）で報告された。

1995年に北川教授の退官を記念して数年ぶりに寧夏に訪問し、寧夏社会科学院と寧夏大学と研究交流がなされた。これが寧夏大学との実質的な交流の端緒であった。その後1997年、島根大学と寧夏大学は交流提携を締結し、両大学の本格的な研究交流や学生交流が始まった（交流提携はそれ以後何度か更新し現在に至っている。）さらに1997年から2年間の科研（代表、北川）により日中韓3国の過疎問題の比較研究を実施した。この頃寧夏では「過疎」という状況ではなかったが、沿岸部の経済発展の影響により少しずつ出稼ぎ等に出る農民がみられるようになり、在村の農民も建設業や運輸業に従事し農村状況が変化しつつあった。特筆すべきは、1990年に調査した農村農家について、この時も追跡調査をしており、さらに2003～4年にも追跡調査をしている。いわば農家状況の変化から農村変容を明らかにしようとしたものであり、この定点観測のデータは重要な研究上の財産になっている。

2000年は中国西部大開発の元年である。各地の中核都市に大規模工業やサービス業、さらに交通網を建設し、中核都市が周辺農村を牽引し経済発展を進めていくという開発方式である。農村に対しては、その一環である「退耕還林還草」政策が大きく影響している。いうまでもなく環境保全のための植林・草地回復であるが、一定の傾斜度以上の農地を例外なく植林させ、あるいは草地回復をさせるため、結果として農民から農地を取り上げることになり、離村・農業からの転業を促進させる政策である。この影響の研究のため、2000年度から3年間、自治区のプロジェクト研究として「退耕還林と生態建設による農村発展」（代表、陳育寧寧夏大学学長）が提案され、日中で共同研究グループをつくり実地研究を開始した。ここでも農村を定点観測し3年間のパネルデータから、「退耕還林還草」政策初期の農村社会の変動に関する貴重な研究資料を得ることができた。これらの成果は、日中の学会で報告され、また『寧夏大学学报』等でも報告された。さらに2003年度から3年間、新たな科研（代表、保母）により、寧夏農村への経済発展の波及、退耕還林、農村の急激な変容という状況のもとで「地域間格差是正と環境改善の最適地域マネジメント」に関する共同研究が始まった。

さて2004年には島根大学と寧夏大学の関係が大きく発展することになった。国際協力銀行（JBIC、現 JICA）が寧夏において人材育成事業を実施するに当たり、関係を築いていた島根大学に相談があり、当時の島根大学の保母副学長（後の研究所日本側顧問）、寧夏大学の陳校長（後の研究所中国側顧問）と話し合いにより円借款による島根大学・寧夏大学

国際共同研究所が創設されることになった。研究所の事業目的は、ここを拠点として共同研究・研究交流の充実を充実拡大し、共同研究を通じて参加する若手研究者の人材育成を行うものである。また共同研究は、中国西部の低開発農村地域の環境改善と持続可能な発展、社会文化の維持増強への方策の提言を目標としている。これに関連して、2006年度から3年間、寧夏大学の若手中堅教員延べ30名余りが半年から1年間の研修のため島根大学を訪れている。これも研究交流の拡大の基礎になっている。(なお、この人財育成事業と関連して、地方政府関係者の研修も、共同研究所(日本側顧問、所長)の主導のもとに島根県等を受け入れとして、とくに水資源利用・水質浄化の分野で行われてきた。この分野は現在島根県と寧夏自治区との間での JICA 草の根事業による技術交流に受け継がれている。)

この共同研究所は日本の大学と中国の大学の共同運営という形態をとっており、中国内陸部に存在する唯一の日中大学共同研究拠点であり、また共同研究所として独自の建物を有している。島根大学では当初2年間は所長と研究員を、その後の2年間は顧問と研究員を現地に駐在させていた(現在は所長等は兼務のため研究員だけを駐在させている)。その建物落成を記念して松江市で国際シンポジウム「東アジアにおける社会発展と環境のあり方」を開催し(2005年)、多くの関連研究者がこれに参加した。またこれが契機になり、2006年から両大学で毎年定期的に国際シンポジウム(セミナー)を開催してきた。冒頭の2013年のセミナーはその10回目にあたる。(つづく)

島根大学と寧夏大学の共同研究について(2)

2013年6月24日掲載

http://www.spc.jst.go.jp/experiences/education/education_1308.html

保母武彦：島根大学名誉教授、同大学元理事・副学長、島根大学・寧夏大学国際共同研究所顧問

略歴：1942年生。名古屋大学経済学部卒。大阪市立大学大学院経営学研究科博士課程単位取得退学。1979年島根大学に赴任。助教授、教授、副学長、理事を経て現職。専門は財政学、地方財政論、地域経済学。

1. 発展的に展開してきた日中共同研究

島根大学が寧夏回族自治区の研究機関と研究交流を始めてから、27年目を迎えた。最初の交流相手は寧夏社会科学院だったが、その後、寧夏大学との交流となった。今日では中国と研究交流する日本の大学・研究機関は少なくないが、交流の長さや緊密さにおいて、私たちの交流を上回るものはないと自負している。長い年月の間には両国間の政治的緊張もあったが、交流は絶えず発展的展開を遂げてきた。

両大学の交流は、三つの時期に大別できる。第一期は、交流の開始から2004年の「島根大学・寧夏大学国際共同研究所」（以下「共同研究所」という。）の設立までの時期である。この期間の特徴は、寧夏の農業・農村と環境問題を研究対象に、主に社会科学分野の交流であった（本稿1を参照）。研究資金は日本の科研や中国の研究助成金を申請して、時として資金が途絶えながらの厳しい交流であった。

第二期は、2004年に「共同研究所」を創設し、2005年にJICAの円借款事業（人材育成プロジェクト）により、寧夏大学構内に独立した共同研究所棟を新設した段階からである。時を同じくして、島根大学医学部と寧夏医学院（現寧夏医科大学）の交流も進展した。それとともに、研究領域は社会科学から自然科学、医学へと次第に拡大した。学問領域と研究対象地域の広がり

このような研究交流の学問領域的広がりを示す一例が、「中国西部農村地域の環境改善と持続可能な発展への方策」をテーマとした、日本学術振興会のアジア・アフリカ学術基盤形成事業の取り組みだった（研究代表者；伊藤勝久教授、2008～2010年度）。この事業では、社会科学、農学、農村医学の3側面から寧夏南部山区を対象に共同研究を行い、共同研究の中で若手研究者の育成に取り組んできた。但し、島根大学の医学研究者と中国西部との関わりには前史があった。島根大学の学内特定研究プロジェクトとして、2005年度から「寧夏プロジェクト」を立ち上げ、寧夏回族自治区政府・寧夏大学・寧夏医科大学が連携し、環境と医療との融合を牽引した新たな研究分野を切り拓く力量を備えた研究者の育成を継続していた。その実績の上に、社会科学、農学、医学の学際的共同研究が進んだのである。

もう一つの変化は、寧夏から中国西部への研究対象の広がりである。厳しい西部環境の根源である荒漠化の研究は、中国西部問題の解決のためには避けて通れない。地域個性の大きい荒漠化問題の解明は、フィールドを寧夏だけに留めることを許さない。この研究テーマに着手したのが、科研研究「中国西北部における砂漠化防止と社会経済構造転換の必要性に関する総合的研究」（研究代表者；保母武彦、2009～2011年度）であった。3年間の研究対象地域として内蒙古、新疆、寧夏を選んだ。幸いにもこの研究は、中国農業大学を中心とした中国側荒漠化問題研究グループとの間の対等な共同研究に発展した。共同研究の範囲は寧夏を超え、内蒙古や新疆、さらには北京の西部研究者たちと共同する、人文・社会科学と自然科学が連携する国際的学際研究へと進んだ。この研究を側面から見守っていただいた中国国家外国専門家局の精神的支えは大きかった。

2. 大学間交流から「西部学術ネットワーク」へ

寧夏から始まった我々の日中共同研究は、今、第三期目を迎えつつある。その特徴は「中国西部地域研究学術ネットワーク」（以下「西部学術ネット」と略記）構想への発展である。

研究対象地域を中国西部とする理由は、西部地域研究の特別の重要性からである。西部地域は荒漠化等の厳しい生態環境条件にあるが、地球環境や世界的食料需給を左右する重要な位置にある。西部地域は「生態環境の悪化と貧困化の悪循環」に勝利しつつあるが、西部学術ネットワークによって日中両国の科学技術を集中投入すれば、この勝利のテンポを加速させることができる。この取り組みが成功すれば、世界の途上国・地域問題を解決するモデルとなるに違いない。これが、西部学術ネットワーク構築の究極の目的である。

西部学術ネットは、中国西部地域を研究対象とする研究者の開かれたネットワークを志向している。誤解を避けるために付言すれば、用語の「西部」とは研究機関の所在地ではなく、研究対象のことである。したがって、中国東部沿岸部や日本の研究者も西部研究の志があれば参加できる。多くの西部研究者をネットでつなぎ、研究交流を通じて学術的、社会的に価値ある複数の研究プロジェクトを推進する。

去る 6 月上旬、西部学術ネットワークの創設準備のために、中国西部や北京の大学・研究機関を訪問して意見交換を行った。訪問先では、西部学術ネットへの熱い期待とともに、研究プロジェクトについての具体的提案を頂いた。その提案された研究プロジェクトは「三農問題」（農業・農村・農民問題）に関わっている。地球的気候変動下の生態環境建設を大枠として、農牧業の生産技術改革と肥料・機器の改善・改良、クリーン生産、有機農業化、農村コミュニティ（社区）の再生、格差底辺地域の社会保障・地域医療の改善などである。その及ぶ科学技術領域は広く、現実問題を解決する高度の学際性を必要とする。

西部学術ネット創設の準備事務局は両大学の国際共同研究所に置き、研究プロジェクト事務局は各々の研究プロジェクトを率先推進する大学・研究機関が担うのが現実的であろう。今秋 10 月 19-20 日、寧夏・銀川市において開催予定の「第 11 回島根大学・寧夏大学国際学術セミナー」の機会に、関係大学・研究機関との協議を詰め、来年度には西部学術ネットワークを正式発足させたいと考えている。

西部学術ネット構想は、独立行政法人国際協力機構（JICA）からの助言と協力を得て実現へのテンポを早めてきた。正式発足後は研究プロジェクトで更に協力を強め、より一層の助言を得つつ大きな成果を挙げるのが期待される。また、関係大学・研究機関から提案された研究プロジェクトの多くが科学技術の開発・移転に関わっており、今後とも、独立行政法人科学技術振興機構（JST）のご指導をよろしく願いたい。

島根大学・寧夏大学国際共同研究所年報 第7号 2013年度

2014年3月31日発行

発行者 島根大学・寧夏大学国際共同研究所
(所長 伊藤勝久)

〒750021 中国寧夏銀川市西夏区賀蘭山西路寧夏大学A区
TEL +86-951-206-1818

〒690-8504 松江市西川津町1060 島根大学内
TEL 0852-32-6547 (伊藤勝久)、32-9735 (国際交流課)

Homepage <http://www.ningxia.shimane-u.ac.jp/index.html>
